令和08年度　　総括管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
1	□実務講座カリキュラムガイダンス 100-01(02-02)	川　波　祥　子	講義 産業医実務研修センター 50名	1/ 5（火）	コマ数 1 医師会認定単位区分	【到達目標】実務講座の必要単位、履修方法を理解し、スケジュールを立てられる。 【概要】実務講座のカリキュラムおよび実務研修センターでの研修についてのオリエンテーションを行う。センタースタッフ紹介、センターでの組織、研修における単位認定、注意事項、日本医師会認定産業医の更新について説明を行う。	学内者のみ受講可
2	□入門シリーズ（総括管理概論） 100-02(02-02)	立　石　清一郎	講義 産業医実務研修センター 50名	1/ 7（木）	コマ数 0 医師会認定単位区分 専門 3	【到達目標】産業保健の総括管理について、その意義、業務内容、および法令関連用語の意味について理解できる。 【概要】労働衛生における総括管理とは、労働衛生の三管理の基盤を構成する事業場の労働衛生管理体制づくり、労働衛生教育および三管理を包括する活動・リスクアセスメントを含めた労働衛生管理のことを指す。本講義では、それに関連する現行の制度や方法論について概説するとともに、産業医に期待されている事項について検討する。併せて、特定の業種における統括管理の考え方にも言及する。	
3	□入門シリーズ（学び合い①） 100-03(02-02)	センター教員	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	1/ 5（火）	コマ数 0 医師会認定単位区分	【到達目標】受講生全員が時間内に穴埋め課題と説明課題を達成することができる。①取り扱うテーマに関する課題についての情報をテキスト、Webなどを用いて調べられる。②調べた情報を参考にしながら、受講者同士で自分の考えを述べられる。 【概要】入門シリーズ（学び合い）の講座では、6コマそれぞれにテーマと課題を設けている。受講生は指定テキスト3冊を使用して、受講生同士で課題に取り組み、理解を深める「学び合い」方式に参加する。課題に取り組み、受講生同士で議論したり、教え合ったりすることで、テキストの読み方や実際の場面での活用の仕方の基本を身につけることを目指す。使用するテキストは次の三つ。①『労働衛生のしおり』は、労働衛生分野における法的枠組みや課題の確認に利用する。②『嘱託産業医のための職務Q&A』は、産業医学と産業保健に関する専門的知識を、実際の場面に即して産業医の職務や実践にどのように活かすかを学ぶ。③『写真で見る職場巡視のポイント』は、産業医が職場を理解して適切な活動を行うために極めて重要な職場巡視の基本や注意事項がまとめられている。	指定テキスト３冊使用
4	□入門シリーズ（学び合い②） 100-04(02-02)	センター教員	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	1/ 5（火）	コマ数 0 医師会認定単位区分	【到達目標】受講生全員が時間内に穴埋め課題と説明課題を達成することができる。①取り扱うテーマに関する課題についての情報をテキスト、Webなどを用いて調べられる。②調べた情報を参考にしながら、受講者同士で自分の考えを述べられる。 【概要】入門シリーズ（学び合い）の講座では、6コマそれぞれにテーマと課題を設けている。受講生は指定テキスト3冊を使用して、受講生同士で課題に取り組み、理解を深める「学び合い」方式に参加する。課題に取り組み、受講生同士で議論したり、教え合ったりすることで、テキストの読み方や実際の場面での活用の仕方の基本を身につけることを目指す。使用するテキストは次の三つ。①『労働衛生のしおり』は、労働衛生分野における法的枠組みや課題の確認に利用する。②『嘱託産業医のための職務Q&A』は、産業医学と産業保健に関する専門的知識を、実際の場面に即して産業医の職務や実践にどのように活かすかを学ぶ。③『写真で見る職場巡視のポイント』は、産業医が職場を理解して適切な活動を行うために極めて重要な職場巡視の基本や注意事項がまとめられている。	指定テキスト３冊使用

令和08年度　　総括管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
5	□労働安全衛生法および関連法令の通読 100-09(02-02)	センター教員	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	1/ 6（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分 更新 1.5	【到達目標】受講生全員が時間内に穴埋め課題と説明課題を達成することができる。①取り扱うテーマに関する課題についての情報をテキスト、Webなどを用いて調べられる。②調べた情報を参考にしながら、受講者同士で自分の考えを述べられる。 【概要】産業医の活動には、労働安全衛生法およびその関連法令を理解することが不可欠である。本講習では、法・令・則などの日本の法体系を意識しながら、労働安全衛生法の全章に目を通し、単独で内容を調べることができるようなるとともに、労働安全衛生法の概要を把握することを目標とする。そのため下記の使用教材を用いて、受講生同士で課題に取り組み、理解を深める「学び合い」方式で進める。課題に取り組み、受講生同士で議論し、教え合うことで目標の達成を目指す。 【使用教材】『安全衛生法要覧』中央労働災害防止協会、『安衛法便覧』労働調査会	
6	□産業医に関する裁判例～産業医が当事者となった例、重要な関与を果たした例を中心に～ 100-10(02-02)	三　柴　丈　典	講義 産業医実務研修センター 50名	1/ 6（水）	コマ数 2 医師会認定単位区分 専門 3	【到達目標】産業保健に関する裁判例等の「生きた法」を知ることで、重視すべきルールと後回しにしてよいルールを見抜き、自信を持って人・組織相手の真剣勝負（リスクテイク）を行える。 【概要】産業保健にとって法は重要な意味を持ちます。健康障害の原因、発生機序が分かりにくく、紛争に発展し易いこと、予防業務をルールで枠づけていること等が理由です。しかし、重要なことは、ルールに使われることではなく、ルールの作り手の思いとルールを使う人の悩みと工夫を知り、ルールを活かすことです。本講話では、産業医に関わる裁判例、ご希望があれば応召義務など臨床にも関わる裁判例などの解説を通じて、実務に活かせる「生きた法」を解説します。	
7	□産業医と倫理 100-11(02-02)	石　丸　知　宏	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	2/ 8（月）	コマ数 2 医師会認定単位区分 専門 3	【到達目標】本来有する医師の倫理と法令に基づく企業の安全配慮義務を踏まえた産業医特有の倫理について理解し、具体的な事例に対応できる。 【概要】産業医の実務遂行において、その根幹に必要とされるのは産業医としての倫理的基盤である。プロフェッションである医師としての産業医には、いわゆる医の倫理の枠組みに留まらず、企業倫理（企業の社会的義務と責任）や経済倫理などの社会倫理、などとのバランスを考慮した総合的な倫理的判断能力が求められることが少なくない。本講義では、社会行動ルールの最低基準としての法令を十分ふまえた上で、プライバシー保護などで法律と倫理が衝突する事例、メンタルヘルスの職場復帰で倫理的な判断が困難な事例、経営方針と産業保健の推進が相矛盾する事例など、産業医がその実務においてしばしば遭遇する代表的な事例について、どのように対応したらよいのかを実践形式で発表してもらい、産業医の本来あるべき倫理的姿勢を検討する。さらに、日々の産業医実務に役立つように、実践行動倫理としてできる限り系統的に把握することを目標とする。	
8	□産業保健組織体制と産業医 100-12(02-02)	一瀬豊日・企業担当者	講義 学内 50名	1/22（金）	コマ数 2 医師会認定単位区分 専門 3	【到達目標】わが国の事業場数や産業医需給の動態の概要を理解する。企業により産業保健活動の展開には多様な事例があることを知り、代表的なものを理解する。担当する事業場や企業における産業保健サービスの展開や求人等に活かすことを目標とする。 【概要】わが国には従事者数1,000人以上の民営事業場は1,911あり、従事者数500～999人の事業場は4,211ある（令和6年総務省経済センサスより）。そのうち少なくとも3,000事業場が専属産業医を有する。また、本学には全国の常勤産業医求人のおよそ半数が寄せられていると推定され、この40年余りで800事業場以上に関与している。安全衛生に係わる職種と体制に関しては労働安全衛生法で定められているが、雇用形態、組織図上の位置づけ、業務内容などの詳細は事業場や企業ごとに異なる。加えて労働衛生施策上の重点事項の変化や保健診療点数の変化により、産業保健体制も変化している。本講義前半では、特に産業医に係わる産業保健体制に関して、本大学に蓄積されたデータの解析結果をもとに、類型化と変化の傾向を概説する。後半では、現在産業医求人中の数社の担当者を招聘し、各事業場の求人内容、ならびに産業保健体制を概説していただき、ケーススタディー学習とする。	

令和08年度　　総括管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
9	□労働安全衛生年間計画 100-13(02-02)	田　口　要　人	参加型講義 産業医実務研修センター 30名	3/10（水）	コマ数 2 医師会認定単位区分 実地 3	【到達目標】１．ケースに基づいた討議に参加して、テーマに関する自分の考えを説明できる。２．事例の設定条件を考慮した安全衛生活動年間計画を作成できる。 【概要】嘱託・専属に関らず、産業医として企業内で活動する際、通常その多くが当該事業所内の安全衛生活動年間計画にそって行われることが多い。当講座では、事例（ケース）をもとに産業医が一般的に関与する労働安全衛生活動を中心に検討し、事業所の規模や種類に応じた年間活動項目を検討し、実際のモデル事業所における産業保健活動の年間計画を策定する実習を通じ、通年での産業保健活動の理解とその中で産業医がどのように関るかについて学ぶ。	【抽選】　余裕があれば学外者受講可
10	□労働安全衛生マネジメントシステム 100-14(02-02)	森　　晃　爾	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	2/24（水）	コマ数 2 医師会認定単位区分 専門 3	【到達目標】労働安全衛生マネジメントシステムの文書体系について説明できる。 【概要】これまでの労働安全衛生活動は、詳細に規定されてきた法令遵守を中心に実施されてきたが、今後は法令を遵守することは最低基準であることを再確認した上で、労働安全衛生マネジメントシステム（ＯＨＳＭＳ）の導入に自律的安全衛生の推進が必要になっている。すでにわが国でも、一部の企業でＯＨＳＭＳの導入が進んでいるが、その実態は安全分野に偏ったシステムであることが少なくない。今後、安全と健康がバランスよく含まれたＯＨＳＭＳが構築されるためには、産業保健専門家がＯＨＳＭＳの導入に積極的に関与する必要がある。本講義では、マネジメントシステムの概念と安全と衛生のバランスが取れたＯＨＳＭＳのために必要な理解をいくつかの課題を通して学習する。	
11	□労働安全衛生マネジメントシステム監査 100-15(02-02)	梶　木　繁　之	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	2/24（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】 １）内部監査の意義や目的を理解し説明できる、２）内部監査があった際に監査者もしくは被監査者のいずれかとして参画できる、３）内部監査で監査員が得た情報をもとに監査報告書に記す結果の分類ができる。 【概要】労働安全衛生マネジメントシステムが事業所内の安全衛生活動の一環として有効に機能しているかどうかを確認する手段として、監査がある。本講義では、内部監査について概説したのち、仮想の事例をもとに実習を通じて監査員の役割や監査の手順を体験する。	
12	□ケースメソッドによる統括産業医のマネジメント 100-16(02-02)	永　田　智　久	参加型講義 産業医実務研修センター 25名	3/ 2（火）	コマ数 2 医師会認定単位区分 専門 3	【到達目標】統括産業医の役割について、説明できる。 【概要】労働安全衛生法では、産業医は事業場単位で選任されることになっているが、昨今、企業全体の産業保健職を統括し、企業全体の産業保健施策を立案する統括産業医が増えてきている。実務講座の受講者の多くは、統括産業医には就くことはないかと思われるが、統括産業医と連携して働くことは十分に考えられる。そこで、統括産業医を題材としてケースを用いた討論を行い、統括産業医の機能を理解するとともに、企業の方針と事業場の産業保健活動との関連を学ぶ。	【抽選】　学内者のみ受講可

令和08年度　　総括管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
13	□企業経営と産業保健 100-17(02-02)	外　部　講　師	講義 ラマツィーニ小ホール 50名	1/21（木）	コマ数 2 医師会認定単位区分 専門 3	【到達目標】企業トップの視座に立ち、産業医としてできること、すべき、してみたいことことを記述できる。 【概要】企業のトップまたは経営幹部を招聘し、その視座から具体的な思考・活動、および産業保健・産業医に対する期待・課題をお話しいただく。	
14	□ＣＳＲ・ＥＳＧ－健康経営における産業保健活動 100-18(02-02)	永　田　智　久	講義 産業医実務研修センター 50名	1/29（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】①CSR、ESG、健康経営について人に説明できる。②労働安全衛生とCSR・ESGとの関連、および、労働安全衛生と健康経営との関連についてを知る。③企業の情報を調べる際、CSR・ESGや健康経営の記述内容をみるよう意識するようになる。 【概要】企業内部における産業保健のあり方として内部統治やコンプライアンス、リスク管理や人的資源管理とその強化への貢献は「健康経営」という考え方に集約される。一方で各利害関係者による企業外からの監査とそれに対して企業側から説明責任を果たす対象として、産業保健活動は取り扱われるようになった。CSR・ESG、健康経営の考え方とその変遷を概観する。その後、各企業のCSR報告書や統合報告書を読み、その分析結果を解説する。受講者は産業医実務の中で産業保健活動のCSR活動や健康経営における位置づけについての基本的な理解と認識を持てるようになることが期待される。	
15	□職場における健康情報の保護と活用 100-19(02-02)	永　野　千　景	講義 産業医実務研修センター 50名	1/25（月）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】産業医として労働者の健康情報を適切に取り扱うことができるようになる。 【概要】職場における健康情報の取扱いの現状と課題を整理する。プライバシー権、医療職の守秘義務、労働安全衛生法が規定する事業者による健康情報の取扱い、個人情報保護法に基づく個人情報の保護、個人情報保護委員会の政省令や行政通知に基づく個人情報の取扱いについて概説する。関連分野として、保険者による健康情報の取扱い、EUにおける健康情報の取扱いを紹介する。	
16	□産業医による健診情報の有効活用 100-20(02-02)	安　藤　　肇	講義 産業医実務研修センター 50名	3/ 5（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】①産業保健活動に関わる情報の内容について説明できる。②産業保健活動に関わる情報の適切な取り扱い及び注意点について説明できる。 【概要】産業保健における個人情報記録には、健康診断結果、就業措置情報、就業情報など多岐に及ぶ。労働安全衛生法（安衛法）に規定された労働者の健康診断結果（健診情報）は、企業および労働者の健康管理における基本的な情報源であり、事業者は、産業医等の医師等の意見を勘案し、就業場所の変更、作業の転換、労働時間の短縮、深夜業の回数の減少等の措置を講ずることが求められている。同法における健診情報は、単なる個人の健康管理記録であることのみでなく、企業における健康管理への有効活用を前提としている。産業保健の現場では、このような情報をどう使うかが求められており、産業医はそれを活用するファシリテーターとしての役割を担っている。本講義では、産業保健における個人情報記録の体系や事例を提示し、現状での問題点などについて解説する。さらに今後の個人情報記録のあり方についての展望を交えながら、産業医（産業保健スタッフ）のワークフローの中での活用について考察を加える。	

令和08年度　　総括管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
17	■労働災害の全般 100-21(02-02)	鶴　田　正　徳	講義 遠隔講義 50名	1/18（月）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】業務中や通勤中の災害及び脳・心臓疾患、精神障害等職業性疾病に係る認定基準を踏まえた相談対応ができる。 【概要】労災補償制度の説明、労災認定基準（主に「心理的負荷による精神障害の認定基準について」及び「脳血管疾患及び虚血性心疾患等（負傷に起因するものを除く。）の認定基準について」の説明を行う。 また、脳心・精神疾患の労災認定状況を交えながら、産業保健スタッフとしての役割や重要性についての説明を行う。	
18	□労働災害と危機管理 100-22(02-02)	庄　司　卓　郎	講義 産業医実務研修センター 50名	1/14（木）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】①「危機」と「危機管理」の概念について理解できるようになる。②「危機管理」と「リスク管理」の違いを理解できる。③想定外の事態への対応方法を検討できる。 【概要】近年、災害の防止を主眼としたリスク管理と同時に、災害が発生してしまった時の対応としての危機管理が重要となってきている。平素から危機管理を行っていなかったために、想定外の事態に直面した時に、適切な対応が行えず企業の存続が危ぶまれるケースも少なく無い。安全管理の現場においても、事故やトラブルを起こさないことだけで無く、発生してしまった想定外の事象に対応して復旧する能力であるレジリエンスが注目されている。講義では、危機管理の進め方や危機に強い組織のあり方を紹介し、事例を通じて危機管理について考える。	
19	□製品安全と品質管理 100-23(02-02)	庄　司　卓　郎	講義 産業医実務研修センター 50名	2/26（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】①製品の安全品質の考え方を理解する。②品質管理の手法を使えるようになる。③製品の安全品質向上に必要な対策を提案できる。 【概要】製品安全と品質管理は、企業が顧客からの信頼を得て社会的責任を果たすために重要な役割を担う。かつては不良品や生産工程のトラブルを減らす目的で現場の小集団活動として行われてきた品質管理は、製品の設計から商品のアフターサービスまで幅広い領域をカバーするものとなっている。近年では、製品使用時の安全の観点から、安全品質が注目されている。 本講義では、労働安全ともつながる製品の安全について、欧州の規格や技術者倫理の視点も踏まえ検討する。事例の分析なども通じて、製品安全と品質管理の概念と手法について修得する。	
20	■労働衛生行政における厚生労働省の役割と部局間連携 100-24(02-02)	諸　冨　伸　夫	講義 遠隔講義 50名	2/ 5（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】産業保健関連法令に関する文書等を理解し、労働者に説明できる。 【概要】多様な人材が安全かつ安心して働き続けられる職場環境を整備するため、令和７年に労働安全衛生法が改正された。この改正により、高齢者の労働災害防止の推進等が盛り込まれており、社会変化による影響が認められる。一方、診療報酬制度においても、平成30年度改定で治療と仕事の両立支援に関する項目が新設されて以降、その内容は年々拡充されている。このように、労働衛生行政は大きな変革期にあり、円滑な産業保健活動のためには、単なる法令遵守のみならず、その趣旨と行政体制の仕組みへの十分な理解が不可欠である。さらに、労働者が一個人として生涯健やかに過ごすためには、地域保健と職域保健が連携した「切れ目ない支援」の実現が急務である。本講義では、政策立案における基本的な考え方を概観した上で、産業保健と地域保健の連携を具現化する鍵となる「部局間連携」のあり方を学ぶことを目的とする。	

令和08年度　　総括管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
21	□企業外労働衛生機関の実際 100-25(02-02)	渡　邉　聖　二	講義 産業医実務研修センター 50名	1/27（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】主に中小企業に産業保健サービスを提供する企業外労働衛生機関のサービス内容、活動について理解できる。 【概要】中小企業は、その規模故に、社内スタッフのみで産業保健活動を完結することは難しく、企業外専門スタッフのサポートをうけることが一般的である。企業外労働衛生機関は、企業外からサービスを提供する機関のうち、民間ベースで最も機能している機関である。総合的企業外労働衛生機関には、各種産業保健専門スタッフが所属し、産業保健サービスを提供することが可能である。また、企業外労働衛生機関は、我が国に広く存在する健康診断実施機関が、産業保健への専門性を高めたものであり、その充実が我が国の中小企業への産業保健サービス提供方式を大きく変える可能性をもっている。本講義では、大学近郊の企業外労働衛生機関の活動の概要を理解し、機関から提供される各種サービスについて学ぶ。また、機関医師から客先企業の産業保健状況等を紹介することにより、産業保健サービス提供側・需要側の双方について理解を深める。	
22	■産業保健総合支援センターとの連携 100-26(02-02)	筒　井　保　博	講義 遠隔講義 50名	2/ 2（火）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】産業保健総合支援センターの支援事業を自身の産業医活動に活用できる。 【概要】我が国の産業保健は労働安全衛生法の立法趣旨に従い、事業者は弱い立場の労働者を守らなければならない、というスタンスで実施されている。そして法律とは責任者が遵守すべき最低の基準である事から、事業者には更なる産業保健の拡充が求められる。大企業における産業保健は産業医や保健師などの産業保健スタッフ、健保組合、企業外労働衛生機関等が連携して実施されている。その一方で日本における事業所数の９９%以上、労働者の7割が中小企業で就労している現状を鑑みると、中小企業への産業保健支援は現状は不十分で、産業保健総合支援センター等の産業保健関連組織と産業医の更なる連携が重要な課題となっている。	
23	■健康保険と健康保険組合 100-27(02-02)	志土地　直　寿	講義 遠隔講義 50名	2/ 5（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】健康保険組合の成り立ちと設立の意義が把握でき、加入者に対して行う保険給付事業や保健事業が理解できる。 【概要】企業では社員７００人以上（または３０００人以上）の会社であれば、国の許可を受けて単独で健康保険組合を設立することができ、この組合組織によって保険給付事業と保健事業（健康づくり）という二つの事業を行っている。また、単独で健保組合を持つことができない中小企業では協会けんぽ（旧、政府管掌健保）に加入している。企業において産業保健活動を行う際には、健康保険と組合の仕組みに精通することは重要である。この講義では保険組合の一例として健康保険組合連合会福岡連合会から講師を招き概要について解説していただく。	
24	□日系企業の海外事業場における産業保健 100-28(02-02)	伊　藤　直　人	講義 産業医実務研修センター 50名	1/ 7（木）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】日本企業がグローバルに産業保健を展開する際に助言できるよう、日本と海外における安全衛生体制の違いを理解できる。 【概要】本講義は、日本企業の進出の多いアジア地域、特に中国における産業保健活動について解説する。日本企業の海外進出は盛んであり、外務省の海外在留邦人数調査統計によると、本邦の領土外に進出している日本企業の総拠点数は７万拠点を超え、その約7割がアジア地域である。日本企業の海外拠点における労働衛生活動については、現地の担当者が法令に準拠して行っていることがほとんどであると考えられるが、先進国に比べて発展途上国や新興国においては、法令の整備に比べて時間がかかる専門人材の養成が遅れており、また外部サービス資源の質についても必ずしも標準化されていない。このような課題に対して取り組む日本企業の活動を紹介しながら、今後グローバルに展開する企業の産業保健について検討する。	

令和08年度　　総括管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
25	■□外資系企業・国際展開する企業における産業保健活動 100-29(02-02)	岡　原　伸太郎	講義 遠隔講義 50名	2/ 5（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】実務において産業保健の目的を考え、その目的に到達するための活動戦略を建てることができる。また、その戦略を実行し、管理することができる。 【概要】日本の企業では労働安全衛生の関係法令に規定された事業者の責任や産業医の職務などに基づいた労働安全衛生の実行、つまり法令遵守が一般的に重要視されている。しかし、当然ながら法令を始めとする企業経営の外部環境は国や地域によって様々な違いがあるため、世界規模で企業経営を展開していくためには当該国・地域の法令や文化・慣習を遵守することに留まらず、労働安全衛生の本質的な意義・役割を捉えた活動が必要となる。また、単に労働者を守るということに留まらず、より健康で幸福な労働者を創出することで、生産性が高く、事業を通じて社会により貢献できる組織となることも必要とされる。本講義では従業員の安全衛生・健康をこのように捉えてグローバル経営を行う企業の一例を紹介する。	
26	□性差に着目した労働衛生管理 100-30(02-02)	辻　　真　弓	講義 産業医実務研修センター 50名	3/ 1（月）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】女性労働者に関する法を理解し、女性の就業が禁止されている業務や就業制限のある業務を把握する。 【概要】近年、産業構造の変化や急速に進む少子高齢化に伴う労働力不足などから、企業と男女労働者を取り巻く環境が大きく変化しています。働く人が性別により差別されることなく、かつ、働く女性が母性を尊重されつつ、その能力を十分に発揮できる労働環境を整備することは、現代の社会において重要な課題になっています。	
27	□女性労働・労働者保護 100-31(02-02)	長　井　聡　里	講義 産業医実務研修センター 50名	3/ 1（月）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】母性保護規定を理解し、現場で母性健康管理を実践できる。また各職場に応じた女性労働者の優先的健康課題を抽出し、健康づくりを指導できる。 【概要】少子高齢化社会の職場では、性別・年齢・国籍などの属性のみならず、様々な事情を抱えた労働者に配慮し、またその特性を踏まえて実施することが大切となる。かつての労働者保護は、今日、産業保健におけるダイバーシティ&インクルージョンとして理解する。 また女性の就労については、妊娠出産期の特別な健康状態である母性健康管理を中心に、男性とは異なるホルモン環境によって変化する生理と病理を理解し、生涯を通じた健康管理のあり方について学ぶ。特に近年の健康経営やSDGｓなどの社会ニーズを踏まえ、母性保護と女性活躍の違いを知って、そのための健康支援体制づくりを理解する。	
28	□雇用・就業形態の多様化と安全衛生管理 100-32(02-02)	大　神　　明	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	1/27（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】①非正規雇用者の種類と違いを知る。②派遣社員と請負社員との違いを人に説明できる。③非正規雇用者の健康影響を調べる情報源を3つ以上，列挙できる。 【概要】企業の中では、正社員のみでなく、パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員、派遣社員、請負社員など、雇用・就業形態が多様化している。特に派遣社員と請負社員について、事例と通して、企業の責任で安全衛生・産業保健活動をどのように実施するかについて検討する。雇用・就業形態が多様な労働者の背景を理解したうえで、起こりうる健康影響について検討する。また、雇用・就業形態に起因する健康影響を調べるための情報源を理解する。	

令和08年度　　総括管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
29	□中小企業における産業保健 100-33(02-02)	吉　積　宏　治	講義 産業医実務研修センター 50名	1/25（月）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】日本における中小企業並びに産業医の実情を理解し、産業医活動への興味を更に増す。 【概要】中小企業は、我が国の全企業の９９パーセントをしめており（従業員ベースでは７２パーセント）、我が国の産業保健の充実を目指す時、中小企業の産業保健をいかに実践していくかは、非常に重要な課題である。本講義では、中小企業の定義や我が国における位置づけを理解するとともに、中小企業の産業保健の実際についての認識を深める。また、中小企業の労働衛生上の特徴や産業保健サービスの提供体制について学習する。中小企業産業保健をサポートするための基本的社会システムや、今後の中小企業産業保健における充実に向けての基本的な考え方について学ぶ。	
30	□農業における産業保健 100-34(02-02)	上　田　　厚	講義 産業医実務研修センター 50名	2/ 2（火）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】農業を含む第一次産業従事者の産業保健上の現状と問題点について理解し、対面する患者に対して適切な臨床的対応と安全・衛生管理の指導ができるようになる。 【概要】農業においては、腰痛業務、化学物質作業（農薬など）、過重労働、暑熱・寒冷作業、騒音など様々な有害要因が存在している。このようなリスクを抱えているにもかかわらず、農業従事者の大半は自営業あるいはそれに準じた者であるため、充実した産業保健サービスを受けることが難しい環境にある。本講義ではこのような農業の産業保健における現状と課題について理解することを目的とする。	
31	□個人の感情的知性と組織の健康 100-35	河　村　洋　子	講義 産業医実務研修センター 50名		コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】①受講生は、講義終了後に感情的知性について自分の言葉で説明することができる。②受講生は、講義終了後に感情的知性の産業保健の現場での活用をイメージすることができる。 【概要】新型コロナウィルス感染症のパンデミックを経験し、私たちの働き方やライフスタイルは大きな変化を強いられ、大きなストレスを経験しました。このような中、再燃している概念の一つに感情的知性（EI：Emotional Intelligence）があります。EIに関して、実証的な研究も蓄積され、一方職場でのコミュニケーションの質を高め職場環境をよりよくするために実践的に活用できる概念だといえます。 本講座の狙いは、受講生の方々が産業医として活動される中で、自ら実践したり、担当されている現場の働く方々に提案できる実践的なアイデアを持ち帰っていただくことです。 私は、ヘルスコミュニケーションを専門としており、専門分野の科学的知見に基づき、「明日からできること」そして「やってみると自分だけではなく、周りの人、自分の属する私的公的双方の集団に変化を生みうること」という観点で講座の内容を構成します。	
32	□企業における教育 100-36(02-02)	柴　田　喜　幸	講義 産業医実務研修センター 50名	2/ 1（月）	コマ数 2 医師会認定単位区分 専門 3	【到達目標】産業保健施策を推進するうえで、その前提となる企業の教育制度全体の仕組み・取り組みを理解する。 【概要】企業において、一般従業員に対してどのような教育が施されているか、企業の教育についての考え方や実践例を学ぶ。	

令和08年度　　総括管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
33	□インストラクショナルデザインの考え方 100-37(02-02)	柴　田　喜　幸	講義 産業医実務研修センター 50名	1/12（火）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】　講義と資料を参考に、チェックリストを8割程度網羅した、衛生・健康教育の設計書を作成（分析と設計の構造化まで）できる。 【概要】教え方の技術、それがインストラショナルデザイン（Instructional　Design、教授設計）である。「健康に関心をもたせ行動変容につなげる」ことは産業医の大きな仕事であり、「教え方」は重要な技術の１つと考える。「必ずしも産業医の話への基本知識や関心のない人」に、効果的・効率的・魅力的に何かを教える・伝える技術を、ワークを通じて習得する。尚、本講義は「労働衛生・健康教育実習」(100-39)の前提となる内容なので、当該実習科目を受講する場合は、本講義を受講することが望ましい。	
34	□プレゼンテーション 100-38(02-02)	柴　田　喜　幸	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	3/ 3（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】　講義と資料を参考に、指定の４つのポイントを全てふまえ、自己紹介プレゼンテーションの設計と実施および他者へのコメントができる。 【概要】産業医の主要活動項目には、嘱託・専属に関らずプレゼンテーションの機会が多々存在する。プレゼンテーションには、主に従業員や管理職などを対象に行う講義・講習形式のものが多い。労働安全衛生に関する教育や啓蒙、産業保健活動の周知の機会として重要であるプレゼンテーションについて、系統だった教育機会はそれほど多くない。当講座では、集団に対する講義形式のプレゼンテーションの要素を中心に、実習を通じて効果的なプレゼンテーションの基礎について学ぶ。	
35	□労働衛生・健康教育実習 100-39(05-08)	柴　田　喜　幸	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	2/15（月） 2/26（金） 3/ 3（水） 3/10（水）	コマ数 2 医師会認定単位区分	【到達目標】　講義と資料を参考に、チェックリストを8割程度網羅した、衛生・健康教育の設計書作成と実施および他者へのコメントができる。 【概要】産業医が行う労働衛生教育・健康教育の意義を踏まえて、自身が産業医先で行う集合研修場面（web実施でも可）を想定し、設計立案を行う。 また、設計に基づき実際の教育資料を作成したのち発表し、受講者同士でも講評し合う。 （設計については「インストラクショナルデザインの考え方」の講義で詳しく触れる。） この実習を通じて、教育を実際に行う際の留意事項および対象に応じた内容、ツール、表現で教育を行うことのポイントを体験的に学ぶ。	学内者のみ受講可
36	□安全衛生委員会（大学　委員会参加） 100-40(02-02)	西　田　千　夏	学内実習 １号館１４０１号室 20名	2/ 9（火）	コマ数 1 医師会認定単位区分	【到達目標】安全衛生委員会に出席し、意義、目的を理解する。 【概要】安全衛生委員会は職場における安全衛生上の課題を討議し、改善計画や安全衛生活動計画などを策定する場であり、安全衛生において非常に貴重な活動である。安全衛生委員会において、産業医がその役割を発揮することは、第一義的に必須な事項といえる。本実習では、産業医科大学の安全衛生委員会を見学することで、大学組織の安全衛生委員会でどのようなことが審議されているのか、また、課題となっているのかを学習する。	【抽選】　学内者のみ受講可

令和08年度　　総括管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
37	□学内産業医活動：職場巡視 100-41(02-02)	西　田　千　夏	学内実習 学内 20名	2/16（火）	コマ数 1 医師会認定単位区分	【到達目標】職場巡視の実際について、実習を行い、経験を積む。 【概要】職場巡視は、「産業医業務は、職場巡視にはじまり職場巡視に終わる」といわれるほど、産業医活動において基本的活動である。加えて、職場巡視は産業医の法定業務でもある。本実習では、産業医科大学における職場巡視に同行し、チェックリストを使用しながら、実際の職場巡視を経験する。その中で、職場巡視における基本的着眼点を確認し、業務としての職場巡視実施に関するイメージを身につける。	【抽選】　学内者のみ受講可
38	□職場巡視の実際 100-42(05-08)	センター教員	学外実習 学外 20名	1/19（火） 1/26（火） 2/ 3（水） 2/10（水）	コマ数 3 医師会認定単位区分	【到達目標】１．訪問先の巡視後に労働衛生の観点からコメントを述べることができる。２．職場巡視報告書に良好事項、改善検討事項をそれぞれ3つ以上記載できる。 【概要】職場巡視は、産業医の法定業務であるだけではなく、産業医として活動する上で必要な情報収集したりコミュニケーションしたり出来る機会であり、「産業医業務は、職場巡視にはじまり職場巡視に終わる」と言われるほど、産業医活動における基本的活動である。本学習では、学外の様々な事業場を訪問し、実際の企業において、産業医職場巡視を模擬体験する。その中で、職場巡視における基本的な振る舞いや着眼点ならびに業務としてのイメージを身につける。	【抽選】　学内者のみ受講可
39	★職場巡視の事後措置 100-43(05-08)	センター教員	レポート提出 20名	1/26（火） 2/ 2（火） 2/10（水） 2/17（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分	【到達目標】職場巡視報告書に良好事項、改善検討事項をそれぞれ3つ以上記載できる。 【概要】本講座は、別講座『職場巡視の実際』の事後措置として実施する(両方の受講を要する)。当該講座に対する職場巡視報告書の提出期限とする。本学習では、大学近郊の事業場において職場改善の実例を模擬巡視で学習した結果について、受講者が各自、職場巡視報告書の形にまとめ、e-learning上で報告書の添削指導を受ける。期日までに添削指導を受け終わることができるように、余裕をもって報告書を提出し、提出後も添削状況の確認を行うこと。	【抽選】学内者のみ受講可。レポート提出のみ。
40	□職場改善の実施 100-44(01-01)	渡　邉　裕　晃	講義 産業医実務研修センター 50名	1/13（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】職場改善の進め方について述べることができる。 【概要】事業場において参加型のリスクアセスメントを行うことで、危険・有害要因に関する情報やリスク対策に関するアイデアが共有でき、個々のリスクベースでの対応能力の向上につながり、事業場の安全衛生水準の向上に寄与すると考えられる。この講座では、労働安全衛生マネジメントを運用しながら、リスクアセスメントを活用し、参加型の職場改善を実施している事例について紹介し、職場改善の進め方について理解を深める。	

令和08年度　　総括管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
41	□産業医活動の実際 100-45(03-04)	外　部　講　師	講義 産業医実務研修センター 50名	2/ 1（月） 2/12（金）	コマ数 2 医師会認定単位区分 専門 3	【到達目標】講師から学んだことを3つ以上記載できる。 【概要】産業医として活動されている卒業生等を講師に迎え、実際の産業医職務の楽しさ、苦労、工夫などを後進にご紹介いただく機会としている。	
42	□ケースメソッドによる事例検討 100-46(05-08)	センター教員	参加型講義 産業医実務研修センター 20名	1/28（木） 2/15（月） 3/ 5（金） 3/ 9（火）	コマ数 2 医師会認定単位区分	【到達目標】ケースに基づいた討議に参加して、テーマに関する自分の考えを説明できる。 【概要】企業における課題に、産業医として直面した際の問題解決能力を向上させるために、実例に基づいた企業の概要・状況と直面している課題が記述されたケース(事例)を提供し、その課題解決のための企画立案を行う。この講座は、多くのビジネススクールで用いられている学習手法であるケースメソッド方式で進めるため、参加者は、事前に各自でケースを読み、自分なりの答えを検討してくるという事前準備が求められる。当日は小グループに分かれて問題分析や企画立案を行った後、講師がディスカッションリーダーとなって全体討論を行い、最後に、取り上げたテーマについて解説を行う。ケースのテーマは、リスクマネジメントや健康管理など、様々である。	【抽選】学内者のみ受講可
43	□社会的健康規定要因 100-47(02-02)	藤　野　善　久	講義 産業医実務研修センター 50名	1/12（火）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】①健康の社会環境モデルについて理解する。②職域における健康格差の発生メカニズムについて理解する。 【概要】近年の公衆衛生学の重要テーマである社会的健康規定要因（Social Determinants of Health）の観点から、企業施策と健康影響の関連を理解する。	
44	□質問票を使った調査 100-48(02-02)	藤　野　善　久	学内実習 産業医実務研修センター 50名	1/18（月）	コマ数 1 医師会認定単位区分 実地 1.5	【到達目標】質問紙を作成する際の手順、注意点を理解する。 【概要】疫学研究分野では、主にばくろ評価手法として、質問紙法が広く用いられている。職歴や既往歴、生活習慣といった個人特性や、医療や社会医学的問題に対する個人的な意識や認識など、主観的および客観的な情報を短時間に多くの対象者から収集する手段として、実用的価値は高い。ただし、質問票の作成に当っては、研究趣旨の説明、簡潔明瞭な文章表現、集計解析作業への配慮など、予め考慮しておくべきことは少なくない。本講義では、医学研究における質問紙法について、実際の作成を通じて、実施手法を習得することを目的とする。具体的には、質問票と面接法の違いの理解、選択回答式質問と自由回答式質問の理解、回答率を上げるための配慮、質問紙の妥当性と再現性などを概説し、実際の質問紙の実例を検討するとともに、自ら質問紙を作成し、グループ討議を通じて理解を深める。	

令和08年度　　総括管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
45	□産業医学と総合診療・家庭医療との連関 100-50(02-02)	岩　田　　勲	講義 産業医実務研修センター 50名	2/19（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】①総合診療、家庭医療の理念とコアコンピテンシーについて説明できる。②産業医と総合診療医・家庭医に共通する役割概念について説明できる。 【概要】第19番目の基本専門領域である総合診療専門医制度が導入された。その趣旨は予防から個人まで、包括的、継続的、調整的な視点で多様かつ未分化な問題を扱う役割の強化であり、職域と地域の違いはあるが、産業医の職務とも相通じる部分が大きい。本講義では総合診療・家庭医療の概要および産業医学領域との潜在的な連関の可能性について解説する。	
46	□災害時における産業保健活動の基礎 100-51(02-02)	立　石　清一郎	講義 産業医実務研修センター 50名	3/ 8（月）	コマ数 2 医師会認定単位区分 専門 3	【到達目標】 災害時における産業保健の基礎的な知識を習得し、最低限の実践力を身につける。 【概要】 災害時には自ら被災しながらも様々な健康影響を受けることが知られている。これらの健康影響を最小化するためには、基本的な災害時の影響を産業医が理解しておくこと、産業医が実践力を有していること、産業医が実行する行動力を持っておくこと、事前に体制などの準備がなされていること、などが必要である。本講義においては、模擬災害事例などを通じて学びを深める。	
47	□産業保健現場におけるＬＧＢＴＱ＋支援について 100-52(01-01)	空　閑　玄　明	講義 産業医実務研修センター 50名	2/15（月）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】LGBTQ+、合理的配慮について理解し、現場において相談対応が来た際に当事者、上司、人事それぞれに適切な説明、支援を実施できるようになる。 【講義概要】１）LGBTQ+についての概要について説明する。２）現場における合理的配慮について説明する。３）製造業、サービス業等複数の産業保健の現場において実際に受けたLGBTQ+関連の相談、対応依頼ケースを紹介し、実際の対応を通して適切な合理的配慮について検討する。	
48	■海外事業場での産業保健活動 100-53(02-02)	小　林　祐　一	講義 遠隔講義 50名	1/25（月）	コマ数 2 医師会認定単位区分 専門 3	【到達目標】海外で働く従業員（海外勤務者）に対して、産業医及び産業保健部門が提供すべき情報とサポート内容として、次の項目を理解する。①海外における医療システムと医療保険の種類とその使い方について、②健康診断及び事後措置と継続的な健康管理について、③感染症予防・予防接種について、④メンタルヘルス不調者の対応について、⑤慢性疾患と急性疾患の管理・緊急搬送におけると医療機関、医療サポートエージェントとの連携について、⑥海外勤務者の過重労働に関する考え方について、⑦その他トピックがあれば含める。 【概要】産業医は、グローバル企業における産業保健活動にどのように関わることができるのか。上記の項目①から⑦を具体的な事例、現地訪問時の写真などをもとに解説する。特に、グローバル企業における産業医の役割を解説する。	

令和08年度　　総括管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
49	□医療機関における安全衛生活動 100-54(02-02)	清　水　真喜子	講義 産業医実務研修センター 50名	1/27（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】 1．医療機関における安全衛生活動の特徴を理解する 2．医療現場に特有のリスクとその対策を説明できる 3．産業医の役割と安全衛生活動の基本的枠組みを理解する 【概要】 医療機関は労働安全衛生法の適用対象であり、安全衛生管理体制の整備とリスクに応じた対策が求められる。一方で、感染曝露、化学物質、針刺し事故、長時間労働、心理的負荷など、医療特有のリスクを有する。 本講義では、これらのリスクを踏まえ、作業環境管理、作業管理、健康管理を中心とした安全衛生活動の基本を概説するとともに、医療機関における産業医の役割について解説する。	
50	□産業医のキャリアパスと専門医制度について 100-55(05-05)	大　神　　明	講義 産業医実務研修センター 50名	1/29（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】日本産業衛生学会専門産業医制度、社会医学系専門医・指導医制度の概要を理解し、産業医業務のスキルアップに繋げることができる。 【概要】日本産業衛生学会は産業衛生専門医制度を持っており、産業保健分野の業務を担当するのに必要な知識、技術、問題解決能力が一定水準にあることを学会が認定している。また、社会医学系専門医は、医学を共通基盤とし、実践的な個人へのアプローチを有しながらも、広範な健康レベルを有する集団や社会システムへのアプローチを中心とする社会医学の専門医であり、臨床系の専門医制度機構における専門医と並列に制定されている。これらの概要について説明し、産業医としてのキャリアパスおよびスキルアップに寄与する事を目的とする。	
51	□【特別講義】快適な職場づくりに向けたエルゴマアプローチ～労災予防の作業管理実務と応用 100-99(01-01)	神　代　雅　晴	講義 学内 50名	2/ 2（火）	コマ数 2 医師会認定単位区分 専門 3	【到達目標】 作業管理の任務を英語表記の「Working Conditions & Ergonomics」から再考し,次いで,これからの産業保健活動の中枢を担う作業管理へと進展させるためのエルゴマ（Ergoma：Ergonomics & Management)の考え方とアプローチ及び技法を理解する. 【講義概要】 ①本講義は労働安全衛生規則第14条第1項で述べられている産業医の5つの主な職務(1.健康診断・面接指導 2.作業環境の維持・管理 3.作業の管理心身の負担軽減,人間工学的な指導 4.労働衛生教育・健康相談 5.職場の巡視)の中の3と5に焦点を合わせている. ②我が国の産業保健誕生期の動きを探ることにより作業管理本来の役割を知ることができる ③作業管理本来の役割を果たすためには産業安全・保健の世界に人間工学(ergonomics)と生産管理・経営管理(industrial engineering and management－これを総じてエルゴマと呼ぶ－）を積極的に導入しなければならない.特に作業管理の「見える化」を図る為に重要な作業改善活動には不可欠である. ④エルゴマの考え方を取り入れたエルゴマアクションチェックリストを職場巡視時に持参することが勧められる.本講義ではその使い方と応用の仕方を説明する. ⑤最後に,職場の腰痛予防,転倒災害防止,ヒューマンエラー防止の3点を取り上げて現場写真等を用いながら「何ができるか?」「どのような改善提案ができるか?」等についてエルゴマ視点から作業管理演習を行う.	
					コマ数 医師会認定単位区分		

令和08年度　　健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
1	□入門シリーズ（健康管理概論） 200-01(02-02)	藤　野　善　久 五十嵐　　侑	講義 産業医実務研修センター 50名	1/ 5（火）	コマ数 0 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】労働衛生３管理における健康管理の内容、特に健康診断（一般健診、特殊健診）の法令や指針の目的、実施時期、疾患の推移による対策の変遷を理解し、予防の概念と健康管理の方策を整理できる。 【概要】労働衛生３管理における健康管理の内容は、健康診断、疾病管理、保健指導、健康教育、衛生教育、職場巡視、健康の保持増進（ＴＨＰ）がある。この講義では特に健康診断（一般健診、特殊健診）の法令や指針を紹介し、その目的、実施時期、疾患の推移による対策の変遷について詳しく解説する。予防の概念と健康管理の方策を整理する。	
2	□放射線業務に関する健康管理 200-02(02-02)	岡　﨑　龍　史	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	1/27（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】放射線の基本事項、放射線量とその影響について習得する。被ばく作業現場における放射線障害について理解し、具体的な放射線防護教育や防護施策の立案ができる。また、病院産業医として、医師や看護師の職業被ばく管理ができる。 【概要】放射線関連の事業所は約7千あり、そのうち民間企業は約3千存在する。労働者に対しては、労働安全衛生法電離放射線障害防止規則（電離則）に定められている。令和4年から水晶体の線量限度が改正された。特殊健康診断は年2回行う。福島原発事故後、100ｍＳｖ未満の線量に被ばくする労働者は増え続け、医療現場における放射線防護の課題が残る。産業医は放射線の正しい知識を持ち、放射線を不適当に怖がらず、放射線の管理を行う必要がある。今回、放射線の基本、人体への影響、放射線障害例、放射線管理、法令、放射線リスクコミュニケーション等について説明する。	
3	□非電離放射線の健康影響とその管理 200-03(02-02)	岡　﨑　龍　史	講義 産業医実務研修センター 50名	1/27（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】非電離放射線の種類、生態影響、対処方法、基準やガイドラインについて述べることができる。 【概要】非電離放射線は、電離や励起を起こさない電磁波で、紫外線、赤外線、超音波、マイクロ波、レーザー波等である。労働基準法施行規則第三十五条において、これらによる疾病については療養補償の対象となる。これらが発生する作業現場、生体への影響、対処法および基準やガイドラインについて説明する。	
4	□熱中症予防対策 200-04(02-02)	永　野　千　景	講義 産業医実務研修センター 50名	1/12（火）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】暑熱環境における労働者の熱中症を適切に予防することができるようになる。 【概要】熱中症は、熱傷を除く暑熱による健康障害の総称であり、熱虚脱、熱けいれん、熱射病などが含まれる。日本の労働災害統計においては、熱中症による死亡者が建設業などを中心に毎年２０人前後発生しており、重要な課題となっている。本講義では、熱中症の発生に関係する温熱生理、職場における温熱環境の指標と基準、実施可能な労働衛生対策について紹介する。また、産業医活動における熱中症予防対策の要点と課題について検討する。	

令和08年度　　健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
5	□化学物質の危険性・有害性と健康影響 200-06(02-02)	上　野　　晋	講義 産業医実務研修センター 50名	1/13（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】化学物質がもたらす健康障害を理解し、これを防止するための三管理（作業環境管理、作業管理、健康管理）について、新たな化学物質規制（自律的管理）を踏まえて実践することができる。 【概要】産業現場で使用されている化学物質は70,000種類を超えるといわれている。今後施行される新たな化学物資規制に基づく化学物質の自律的管理について概説するとともに、その基本となるSDS（安全データシート）を利用した、化学物質の危険性と有害性に関する情報の収集とその解釈および三管理（作業環境管理、作業管理、健康管理）への応用について説明する。さらに化学物質の人体への侵入経路と有害性の発現機序、急性曝露あるいは慢性曝露による健康障害についての基本的な知識から代表的な曝露事例とその対応策を概説する。	
6	□有機溶剤対策の実際 200-07(02-02)	五十嵐　　侑	講義 産業医実務研修センター 50名	3/ 5（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】有機溶剤取り扱い作業場の写真を見て、講義資料や各種資料を参考にして、必要な対策を３つ以上挙げられる。 【概要】有機溶剤は、製造業や建設現場などで広く一般的に使用されている化学物質であるが、管理や使用の方法を誤ると、健康障害を引き起こすほか、急性中毒事故によって死者が出る事も稀ではない。本講座では、有機溶剤の管理における法的な根拠や必要な対応、有機溶剤の性質や人体への影響、有機溶剤の管理方法や健康障害の予防策などを理解する。また、有機溶剤の有害性に関する情報を自力で収集・評価し、産業医として適切な助言・指導が出来ることを目的とする。	
7	□有機溶剤特殊健診の模擬判定実習 200-08(02-02)	五十嵐　　侑	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	3/ 5（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 実地 1.5	【到達目標】有機溶剤特殊健診結果を見て、講義資料や各種資料を参考にして：①判定を付け、その理由を述べられる、②さらに収集したい情報を２つ以上挙げられる。 【概要】産業の現場には、人体に何らかの悪影響を及ぼし得る化学物質が多数存在する。これらの有害物質や有害業務による健康影響を予防することは、産業保健活動上の優先度が高く、多くの企業において３管理の観点から対策が実施されている。健康管理の面から実施されている事のひとつに特殊健康診断があり、当該要因による健康影響の確認がなされているが、その実施は言うまでもなく、判定や事後措置までが適切になされることが重要となる。判定や事後措置は産業医にとって重要な職務であるが、業務起因性や関連性の評価も行い、適切な判断をすることが求められる。本講義では有機溶剤健康診断の教材を用いて実習を行う事で理解を深め、特殊健康診断の評価方法や留意点について学ぶことを目的とする。	
8	□電子タバコ・加熱式タバコの健康影響 200-09(02-02)	姜　　英	講義 産業医実務研修センター 50名	3/ 8（月）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】産業医として電子タバコ・加熱式タバコを含む企業の喫煙対策の企画・立案、従業員に対する禁煙指導を行うことができるようになる。 【概要】喫煙は予防可能な最大の健康阻害要因である。健康増進法の改正（2020年4月1日全面施行）により，事業者だけでなく国民全てにおいて「望まない受動喫煙」を防止するための取り組みが，マナーからルールへと変わった（義務化された）。一方で，近年国内では加熱式タバコをはじめとする新しいタバコ製品が広く普及してきており，これらについては長期的な疫学研究による健康影響については未だ十分明確になっていないとして，健康増進法改正においては緩和された経過措置が取られている。WHOタバコ規制枠組条約等関連する規制の動向を含めタバコ規制と健康影響について理解することを目的とする。	

令和08年度　　健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
9	□生物因子のリスクアセスメント 200-10(02-02)	齋　藤　光　正	講義 産業医実務研修センター 50名	2/25（木）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】①職場の感染症対策の目的を理解し、感染症関連法規、感染症成立の３要因（病原体、感染経路、宿主）と対策、また労働衛生の５管理の観点からの感染症対策について述べることができる。②生物的リスク因子のリスクアセスメントについて述べることができる。③国内の職場において注意すべき主な感染症について、それぞれの特徴と職場での対策のポイントを述べることができる。 【概要】職場における生物的リスク因子は微生物によっておきる感染症である。労働基準法施行規則第３５条に「使用者が療養の費用を負担しなければならない業務上疾病」として、細菌・ウイルス等による感染症がある。新型インフルエンザ（経気道感染）やノロウイルス感染症（経口感染）のようなヒトからヒトへ伝播する感染症が労働現場に持ち込まれ、集団発生すると事業継続が困難になる恐れがある。一方、レジオネラ肺炎のようにヒトからヒトへは伝播しないが、人工水等のエアロゾル吸入で集団発生した場合は、水周りの管理責任は事業者に問われる。事業所における感染症対策は、法令遵守の目的以外に、安全配慮義務、企業の社会的責任、事業継続計画の観点からも行わなければならない。本講座では、事業所における感染症関連の法令、感染症成立の３要因（病原体、感染経路、宿主）と対策、また労働衛生の５管理の観点からの感染症対策について理解を深める。	
10	□情報機器作業の健康管理 200-11(02-02)	永　田　竜　朗	講義 産業医実務研修センター 50名	2/25（木）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】情報機器作業に関連する眼科的知識を習得する。 【概要】ハードウェア・ソフトウェア双方の技術革新により、職場におけるIT化はますます進行しており、情報機器作業を行う労働者の範囲はより広くなり、作業形態はより多様化している。情報機器を使って作業を行う労働者の健康を守るため、令和元年7月に「情報機器作業における労働衛生管理のためのガイドライン」が策定された。これにより、平成14年4月に発出された「VDT作業における労働衛生管理のためのガイドライン」は廃止されることになった。 本講ではガイドラインの変更点について説明し、情報機器作業による労働者の心身の負担を軽くし、支障なく働けるようにするため、事業者が講ずべき措置、特に健康管理について解説する。	
11	□上肢障害の評価と対策 200-12(02-02)	筒　井　隆　夫	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	2/ 4（木）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】基本的な上肢障害の診断と対応ができる。 【概要】上肢障害は、ライン作業などの繰り返し作業、ＶＤＴ作業などの長時間の同一姿勢などで起きる、頸から肩、上肢の筋骨格系障害である。上肢障害の疾患概念と診断方法、その対策について、自動車組立工場における事例を提示しながら講義を進める。	
12	□職場における腰痛対策 200-13(02-02)	武　田　　俊	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	2/19（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】腰痛健診をはじめとした職場における腰痛対策を理解し、様々な現場での腰痛対策に生かすことができる。 【概要】業務上疾病（休業４日以上）における災害性腰痛の発生件数は年間約６，０００件に達し、業務上負傷疾病の約８割を占めている。そのため「職場における腰痛予防対策指針」が策定され、行政指導（通達）に基づく特殊健診として、腰痛健診が重量物取り扱い作業者等に実施されている。本講義では、腰痛健診の法的位置づけ、健診の対象業務、ならびに健診の体系を概説し、実際の健診結果票を元に症状や所見のポイントを解説する。また腰痛対策全般において腰痛健診はその一部に過ぎず、むしろ作業管理および健診からの事後措置が重要である。腰痛の最近の知見・実際の作業場所の事例および裁判例などを紹介し、腰痛に対しては総合的な対策が重要であることを理解する。	

令和08年度　　健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
13	□海外派遣労働者の健康管理 200-14(02-02)	清　水　少　一	講義 産業医実務研修センター 50名	1/22（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】海外派遣に伴う労働衛生上の諸課題を理解し、産業医としてその解決や予防に必要な対応の実践や指導を行うことができる。 【概要】労働者の海外派遣に伴う健康問題は、生活習慣病、メンタルヘルス、感染症に大別される。 それらの概要および派遣前教育を含めた予防方法、利用可能なリソースについて解説すると共に、法に規定される海外派遣前後の健康診断の概要とその結果の解釈および実際の運用についても概説する。 また派遣中に実際に発生し得る健康問題への対処について、事例を踏まえ検討する。	
14	□在宅勤務者の健康管理 200-17(02-02)	大 河 原　　眞	講義 産業医実務研修センター 50名	2/16（火）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】①在宅勤務に関する近年の潮流と科学的知見について理解し、説明できる。②在宅勤務の健康影響に関わる要因及び生じ得るリスクについて説明できる。③企業において在宅勤務を導入する際に注意すべき点について説明できる。 【概要】在宅勤務をめぐるこれまでの社会的潮流について概説する。 また、COVID-19流行をきっかけに急激に普及した在宅勤務について、近年の科学的知見を整理し、紹介する。 在宅勤務の健康影響を修飾する種々の要因とその結果生じる影響について全体像を捉えながら、在宅勤務の特徴や特有のリスク、企業において在宅勤務を導入する際に注意すべき点について法的・科学的観点から解説する。	
15	□ロービジョン者の健康管理と両立支援 200-18(02-02)	村　上　美　紀	講義 産業医実務研修センター 50名	1/20（水）	コマ数 2 医師会認定単位区分 専門 3	【到達目標】眼疾患による見えにくさを有する従業員への就業上の助言・指導・援助ができ、職場環境を含めた対応ができる。 【概要】眼疾患で見えにくくなった（ロービジョン）場合、その状態で、日常生活や仕事をし続けなければならない。患者さんが持っている視機能を最大限に活用しＱＯＬ向上を目指すロービジョンケアが仕事の場でも役立ち、職場の環境整備にも応用できる。本講習では眼科でのロービジョンリハビリテーションについて講義をし、眼科主治医への書類の記載などを実習する。	
16	■外国人労働者の健康管理 200-19(02-02)	内　野　文　吾	講義 遠隔講義 50名	2/ 2（火）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】外国人労働者の就労をめぐる問題を理解し、産業保健管理上の要点を説明できる。 【概要】近年、日本で就労する外国人は増加の一途をたどっており、2024年10月末現在での外国人労働者数は約230万人で、コロナ禍により一時増加率に陰りはみられたものの、12年連続での過去最高数の更新、かつ二桁の伸びが続いている。労働力の不足が深刻な課題となりつつある経済状況を背景に、今後もこの傾向は続くと予想される。 外国人労働者の増加に伴い、外国人が産業保健活動の対象となる機会も多くなっている。産業保健スタッフは国籍に関わらずサービス提供を期待されているが、実務上は多くの課題が存在する。 本講義では、まず日本における外国人労働者の現状と実態について整理し、就労そのものに課題があることを述べる。次に、当社での経験をもとに、事例を交え産業保健上の課題と取り組みについて紹介し、産業医の役割と心得ておきたい事項をまとめていく。	

令和08年度　　健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
17	□健康診断・事後措置 200-20(02-02)	田　口　要　人	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	1/14（木）	コマ数 2 医師会認定単位区分 実地 3	【到達目標】１．講義資料を見ながら小テストにすべて回答できる。２．模擬事例10件の就業判定を行うことができる。 【概要】産業医による健康診断結果判定は、個々の項目についての検査値のみを評価するのではなく、職域周辺の情報（経年的データの推移、自他覚症状、業務歴・作業態様、生活歴・家族歴などの情報）も含めて総合的に行う。それらの結果が事後措置にも反映される。本講義では、一般健康診断における結果判定の意義や産業医が踏まえるべき留意点を学び、更には判定から事後措置までの概論と模擬事例の判定を行うことを通して、健康診断結果判定の考え方を理解することを目的とする。	
18	■特殊健康診断の実際 200-21(02-02)	坂　本　史　彦	講義 遠隔講義 50名	2/25（木）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】作業ごとの特殊健康診断の必要性について説明できる。 【概要】事業場における特殊健康診断の実施については、各企業によって実施方法は様々です。法的に行わなくてはならない特殊健康診断は一定の基準で決まっています。企業によっては、企業グループ内に労働衛生機関を持ち、定期健康診断や特殊健康診断を実施することにより、健康診断の実施や判定の精度を高める工夫をしている企業も存在します。このカリキュラムでは、特殊健康診断が法的に必要な場合、法定外でも医学的に必要な場合など、様々なシチュエーションにも応用できるような内容となっており、実際の作業現場において産業医として特殊健康診断の必要性について判断できるようになるきっかけとなる講義を目標としています。また、診察方法の手技についても実習を行ってまいります。	
19	□がん検診について産業医に有用な知識 200-22(02-02)	伊　藤　ゆ　り	講義 産業医実務研修センター 50名	1/ 7（木）	コマ数 2 医師会認定単位区分 専門 3	【到達目標】産業医として有効性の評価されたがん検診を正しく実施する知識を身につける 【概要】科学的根拠に基づいて有効性が評価されたがん検診を正しく実施するために、必要な基礎知識を紹介する。がん検診の有効性評価における研究デザイン、評価指標、各種バイアスについて、整理した上で、現在厚生労働省により推奨されているがん検診ガイドラインについてまとめる。がん検診を正しく実施する上で不可欠となる精度管理についても感度・特異度、発見率、要精検率、精検受診率などの評価指標について理解する。また、職域におけるがん検診における現状と課題について、概観するとともに、産業医として職域のがん検診にどう取り組んでいくかについて議論する場としたい。	
20	□健康診断における保健指導の実際 200-23(02-02)	中　谷　淳　子	参加型講義 産業医実務研修センター 20名	2/24（水）	コマ数 2 医師会認定単位区分 実地 3	【到達目標】 ①職場で行う各種健康診断後の保健指導の目的を理解し、説明できる②保健指導の目的に応じた情報収集およびアセスメントの要点を理解し、説明できる③行動変容を促す保健指導に必要な知識・技術の全体像を理解する④保健指導の実施にあたり、対象者と信頼関係を築くためのコミュニケーションのポイントを理解し一部実践できる⑤健康診断後の一般的な保健指導の流れを体験する 【概要】産業保健活動の重要な業務の一つに健康診断があります。健康診断の目的は、その結果を踏まえて安全配慮義務、自己保健義務を果たすことであり、事後措置が重要です。健診の事後措置として産業医には就業判定という重要な役割がありますが、労働者本人に対する保健指導も必要になります。本講義では、健康診断結果に基づく保健指導について概説し、実習で健康診断後の一般的な保健指導の流れを体験し、対象者と信頼関係を築くコミュニケーションのポイントを学びます。	【抽選】　余裕があれば学外者受講可

令和08年度　　健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
21	□禁煙指導の実際 200-24(02-02)	西　田　千　夏	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	3/ 1（月）	コマ数 1 医師会認定単位区分 実地 1.5	【到達目標】心理的依存に対する喫煙者のステージに合わせた指導とニコチン依存に対する代替医療を説明できる。実習を通してプロチャスカの行動変容の理論に基づく禁煙指導を習得し、実施できる。 【概要】本講義では、プロチャスカの行動変容の理論に基づく効果的な禁煙指導とニコチン補助薬とその特徴について概説する。また、実習を通して効果的な禁煙指導を習得する。実習内容は、心理的依存に対する喫煙者のステージに合わせた指導方法と身体的依存によるニコチン依存に対して使用するニコチン補助薬の説明方法について習得するものである。	
22	□健康づくりのための身体活動・運動ガイド２０２３に基づく健康増進活動の企画・立案 200-25(02-02)	姜　　英	参加型講義 産業医実務研修センター 24名	2/19（金）	コマ数 2 医師会認定単位区分 実地 3	【到達目標】個人及び職場における健康の保持・増進対策を企画・立案できる。 【概要】メタボリックシンドロームに関連する定期健康診断の有所見率は増加の一途をたどっている。これらの所見は生活習慣を見直すことによって改善が期待できる。労働安全衛生法第69条では、「事業者は、労働者に対する健康教育及び健康相談その他労働者の健康の保持増進を図るため必要な措置を継続的かつ計画的に講ずるように努めなければならない」とされており、その企画・立案をするための基本を理解することは重要である。本講義では、グループディスカッションを行い、①個人の肥満解消のための運動処方、食生活の指導内容について、②仮想事業場における定期健診の集計結果をもとに、職場における問題点を検討し、施設や設備等の職場環境を考慮しながら、問題点を解決するための具体的な対策について、健康増進の観点から企画・立案を行う。さらに、グループごとに発表を行うことで議論を深める。これらの作業を通して、産業保健活動における健康の保持・増進対策の進め方について学ぶことを目的とする。	【抽選】　余裕があれば学外者受講可
23	□職場における喫煙対策 200-26(02-02)	姜　　英	講義 産業医実務研修センター 50名	2/12（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】安全衛生委員会等で喫煙対策の必要性を解説できる。 【概要】労働安全衛生行政における喫煙対策の変遷、労働衛生の３管理としての喫煙対策について解説をおこなう。 ・作業環境管理、快適職場：喫煙室では受動喫煙の防止は不可能であること、建物内～敷地内全面禁煙による受動喫煙と三次喫煙の防止の必要性 ・健康管理：禁煙治療への誘導方法 ・作業管理：勤務中の喫煙禁止による作業密度の公平性 安全衛生委員会で説明すべき内容（能動喫煙と受動喫煙による健康障害の大きさ、「たばこの規制に関する世界保健機関枠組条約(2005年)」に基づく世界の喫煙対策の流れ）、「改正健康増進法(2018年)」「職場における受動喫煙防止のためのガイドライン（2019年）」を根拠として推進する職場の喫煙対策、その喫煙率の低減効果などのメリットについて解説する。 http://www.tobacco-control.jp/	
24	□職場における転倒防止のための体力づくり 200-27(02-02)	財　津　将　嘉	講義　演習 産業医実務研修センター 30名	1/ 6（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分 実地 1.5	【到達目標】データ分析に基づき職場における転倒防止策を立案することできる。 【概要】職場における転倒災害は、労働災害死傷者の原因第１位を続けている。そこで本演習では、公開されている労働者死傷病報告全件データ1年分（14万件、20MB）を各自ダウンロードして転倒災害に関する基本的な疫学分析を行い、現状のエビデンスを作成する。次に、受講者を小グループに分けて転倒等リスク評価セルフチェックを実践し分析を行う。データ解析で使用する統計ソフト、ノートPC等は各自で用意し、基本的な操作は予習してくること。講義でのデモンストレーションは統計ソフトのSTATAを使用する。	【抽選】　余裕があれば学外者受講可。／データ解析で使用する統計ソフト、ノートＰＣ等は各自で用意。種類は問わない。

令和08年度　　健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
25	□メタボリックシンドロームと運動指導 200-28(02-02)	道　下　竜　馬	講義 産業医実務研修センター 50名	1/18（月）	コマ数 2 医師会認定単位区分 専門 3	【到達目標】メタボリックシンドロームの概念を理解し、生活習慣病の予防や改善のための運動処方の作成・指導ができるようになる。 【概要】近年、わが国において、生活習慣病対策が重要な課題となっている。生活習慣病を予防するためには、食事や休養のあり方はもとより継続して運動を実施することが重要である。運動指導を実施する際にもその指導スキルは重要であり、運動だけではなく日常生活での身体活動量を増やすことから始めていくなどの工夫も必要となる。生活習慣病の予備群としてのメタボリックシンドロームの解説とともに、今後さらに産業保健活動を行っていく上で必要になっていくであろうヘルスプロモーションに関する知識やスキルについて解説していく。	
26	□ヘルスリテラシーと健康教育 200-29(02-02)	江　口　泰　正	講義 産業医実務研修センター 50名	2/26（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】ヘルスリテラシーの概念やその向上のための支援法について説明できる。 【概要】「良好な健康状態の維持増進のために必要となる情報やサービスにアクセスし、理解し、評価し、活用できるようにする知識や能力（Nutbeam 2021）」と言える「ヘルスリテラシー」が近年、医療や保健、教育等の分野で注目されてきている。厚生労働省が2015年に発表した「保健医療2035」の中でも、ヘルスリテラシー向上の必要性が謳われ、また健康経営優良法人の認定要件の例としても盛り込まれている。ヘルスリテラシーが不十分だと様々な健康課題が増加し、また高めていくことで人々の豊かな生活へ結びつけていくことが可能となる。しかしながら、医療や保健の専門家といえども、ヘルスリテラシーについてよく理解している人はまだ十分とは言えない。本講義では、ヘルスリテラシーの定義や要素分類、評価法について、そしてこれを高めるための健康教育やヘルスプロモーションとの関連等について学習する。	
27	■睡眠と労働衛生 200-30(01-01)	加　藤　憲　忠	講義 遠隔講義 50名	2/ 5（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】産業医の面接で役立つ睡眠医療の問診力と対応力を身に着けること 【概要】現在、職域では「メンタルヘルス不調」、「過重労働」、「自動車事故」等が重要な課題となっている。これらは企業の本来の目的である「労働」と密接に関連し、人事労務管理・安全管理の問題が混在していることも多いため、医師として何をすべきか迷うことも多い。 これらの問題に対して、医師である産業医が「現実的」且つ「有効」なアプローチをするためには、これらの課題と密接に関連し、且つ、扱いやすい「睡眠」に焦点を当てた対策を行うことが有用である。これらの対策は、プライマリ・ケアの外来を受診した勤労者世代の診療にも役立つ。 今回の研修では、「睡眠」とくに、「不眠」、「睡眠不足」、「睡眠時無呼吸症候群」に焦点を当てて、外来診療や産業医の面接に役立つ知識をお伝えしたい。	
28	■産業医に必要な睡眠学 200-31	新　島　邦　行	講義 遠隔講義 50名		コマ数 2 医師会認定単位区分 専門 3	【到達目標】労働者の睡眠障害を理解し、職場や本人からの相談に対応できる。 【概要】睡眠（休養）は、運動・食事（栄養）と並ぶ、健康維持・増進のための３大要素の一つである。近年、睡眠に関するさまざまな研究から、睡眠不足や睡眠障害の健康や仕事への影響が明らかにされてきた。労働者の健康管理において、交替勤務者の睡眠障害、過重労働に伴う睡眠不足、睡眠時無呼吸症候群のような睡眠障害を生じる疾患への対応などが重視されている。当講座では、労働者の睡眠問題への対応を理解していただくことを目標とし、「睡眠医学の基礎」と「労働者の健康管理における睡眠の重要性と睡眠障害への対応」について解説する。	

令和08年度　　健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
29	□治療と仕事の両立支援 200-32(02-02)	永　田　昌　子	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	2/18（木）	コマ数 2 医師会認定単位区分 実地 3	【到達目標】治療と仕事の両立支援が求められる背景を理解し、就業上の措置に関する産業医の視点を理解することができる。 【概要】病気に対する企業の対応は健康状態と職業上のマッチングを検討する職務適正の判断を行うことが一般的であった。しかしながら、超高齢社会に突入した我が国においては病気などの多少の働きにくさを持った労働者であっても本人を治療を受けながらも仕事ができる環境を支援することは産業医にとって重要なスキルになりつつある。本実習においては理論的背景とともに産業医の在り方について受講者とともに議論する。	
30	□脳血管疾患に対する両立支援 200-33(02-02)	松　嶋　康　之	講義 産業医実務研修センター 50名	3/ 9（火）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】①脳血管疾患に罹患した従業員の適正配置と両立支援の方法を説明できる。②両立支援にあたって、脳血管疾患に対する留意事項を説明できる。 【概要】障害者の社会参加・就労は重要なリハビリテーションの目標であり、ノーマライゼーションの理念を具現化するものである。わが国の障害者施策は、障害者雇用促進法に基づいて進められており、最近の改正により新たな段階に移行した。身体障害者の就労状況は増加傾向にあるが、障害者の重度化・高齢化、非正規雇用などの労働態様の変化、急激な医療環境の変化の影響を受けている。特に、脳血管疾患を有する中途障害者の職場復帰には多くの要因を考慮する必要があり、医療サイドと産業保健サイドとの調整による適正配置と両立支援が必要である。本講義においては、厚労省が公表した「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」における脳血管疾患に対する留意事項等について概説する。	
31	□産業医のための循環器講義 200-34(02-02)	河　野　律　子	講義 産業医実務研修センター 50名	3/10（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】 ①意識消失発作や失神患者の診療や原因など特徴を知り、適切な専門医につなげることが出来る。 ②失神患者の治療について知る。 ③失神患者・不整脈発作を持つ患者の自動車運転制限について知る。 ④失神患者の職場復帰時の問題点について知る。 【概要】失神は国内において、年間80万人近くに発生していると予測されており、生涯に4人に1人は経験すると報告されている。就労世代での発症も多く、運転や仕事の継続への判断が必要となることも多い。実際に、職場の産業医から失神患者の就労に対する問い合わせもある。失神患者には、道路交通法で定められた運転制限もあり知っておくべきである。失神の原因として最も多い、神経反射性失神は、ストレスが関与していることも多く、交代勤務や長時間労働により発症し得る。生命予後が最も悪い心原性失神は、原因究明が困難であったが、植込み型ループ式心電計によって早期診断が可能となり、失神診療は大幅に進歩している。当院は、全国でも珍しく失神診療を得意としており、最新のガイドラインも交えた失神診療について説明する。意識消失発作や湿疹を訴える労働者に対し、産業医が適切な医療機関受診勧奨、就業適正判断を行うための知識を解説する。	
32	□産業医学と呼吸器疾患 200-35(02-02)	松　永　崇　史	講義 産業医実務研修センター 50名	1/13（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】呼吸器疾患について産業医学的見地から評価できる。 【概要】呼吸器は外界との接触の場として皮膚などとともに有害物質にばく露されやすい臓器である。歴史的にも産業医学の父と呼ばれる16世紀のイタリアのパドヴァ大学ベルナルディーノ・ラマツィーニの著書である「働く人々の病」の中でも、非常に多くの職業と関連した呼吸器疾患が記載されており、古くから職業・労働環境と呼吸器疾患の関係は認識されてきた。現在でもじん肺などを代表に職業性喘息や肺癌、悪性胸膜中皮腫などがあり、職歴や職場環境の正確な把握は呼吸器疾患の正確な診断には非常に重要な要素の一つである。 本講義では、外界と最も密に接する内臓器である呼吸器という側面から産業医学や環境との関連について具体例を挙げながら概説する。	

令和08年度　　健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
33	□妊産婦や婦人科疾患に対する職場対応 200-36(02-02)	金　城　泰　幸	講義 産業医実務研修センター 50名	1/12（火）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】①働く女性の健康管理の必要性を理解する。②女性のライフステージに応じた健康障害を理解し、職域における対応方法を学ぶ。 【概要】女性就労率の上昇のため、働く女性の健康障害や妊娠出産に出会う機会が増えています。今回、妊娠出産に関わる問題や女性のライフステージに応じた健康障害について講義します。また母健カード等のコミュニケーションツールの紹介、健康診断や人間ドッグから得られる情報と婦人科疾患との関連についても触れる予定です。	
34	■職業性皮膚障害 200-37(02-02)	礒　田　英　華	講義 遠隔講義 50名	1/18（月）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】化学物質による皮膚疾患のリスクを理解し、その有害性を労働者に対し教育することができる。 【概要】職業性皮膚障害は多岐に渡り、その頻度も高い。接触皮膚炎から皮膚癌まで、実際の臨床症例を提示しながら、作業環境との関連について解説する。	
35	□有害業務による歯科異常と生活習慣病としての歯科疾患 200-38(02-02)	上　田　大　佑	講義 産業医実務研修センター 50名	1/ 6（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】有害業務による歯科異常と労働者の口腔衛生について理解する。 【概要】有害業務による歯科異常について概説するとともに、歯周病など生活習慣病としての歯科疾患について学習する。次の３点に講義の重点を置く。１．歯牙酸蝕症の病態と診断、２．ウ蝕の成因と予防、３．歯周病の成因と予防	
36	□職場で問題になる感染性疾患の健診、感染対策 200-39(02-02)	鈴　木　克　典	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	2/16（火）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】職場で問題となる感染症疾患について理解する。 【概要】事業所における感染症発症は、我々が推進している産業安全衛生活動の現場に於いて想定される大きな危機の１つである。世界に目を向ければ、結核は３大感染症の１つであるし、国内においても、ＨＩＶ感染症の蔓延に有効な対策がなされていない現状や、海外労働者の流入などによって、労働現場における結核発症のリスクは増大していると言わざるを得ない。どんなに十分な感染症対策を行っていても結核をはじめとした感染性疾患はある一定の確率で発生する。発生した感染症の２次感染を予防し、労働現場の生産性を落とさないということが産業医学に課せられた使命の１つであると考える。この中でも、感染症を発症した労働者の周囲の労働者の発症リスクを考え、トリアージを行う必要があり、保健所など関係機関との連携を深めていかなければならない、まさに産業医の「腕の見せ所」である。本講義では、実際の感染症発症の事案を検証することによって、産業安全衛生活動の現場における感染性疾患の位置づけ、アウトブレイク対応などを学ぶことを目的とする。	

令和08年度　　健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
37	■第三次産業の産業保健 200-40(02-02)	河　津　雄一郎	講義 遠隔講義 50名	1/13（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】第三次産業の産業保健の特徴について理解し、実務に対応できる 【講義概要】労働安全衛生関連法規は第二次産業の終身雇用の正規雇用労働者を主な対象と想定しており、第三次産業ではその実情に合わせた産業保健の提供をしなければならない。そこで、労働集約型産業、小規模分散型事業場、非正規雇用労働者等の第三次産業の特徴について説明し、第三次産業の中でも多くの就業者を占める小売業における実務の事例について紹介する。	
38	□積極的傾聴法 200-41(02-02)	真　船　浩　介	学内実習 産業医実務研修センター 25名	2/ 9（火）	コマ数 2 医師会認定単位区分 実地 3	【到達目標】積極的傾聴に関するラインケア研修が企画できる。 【概要】「労働者の心の健康の保持増進のための指針」において推進されている「ラインによるケア」では、相談対応が管理監督者の役割の一つとして位置づけられ、話の聴き方や情報提供及び助言の方法等、管理監督者を対象とした相談対応のための教育研修も重視されている。代表的な研修内容の一つである積極的傾聴法を職域に幅広く定着させるには、産業保健スタッフが自ら指導できることが望ましい。本講義は、積極的傾聴法の目的を概説し、発見的体験学習法による実習を行い、管理監督者教育として指導する際のポイントや実践例を紹介する。	【抽選】　余裕があれば学外者受講可
39	□職業性ストレスの評価法とストレスチェックの実際 200-42(02-02)	真　船　浩　介	講義 産業医実務研修センター 50名	1/22（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】職業性ストレスモデルに基づくストレスチェックの実施方法及び事後措置を説明できる。 【概要】職業性ストレスの主要な理論モデルに基づく評価方法を紹介し，ストレスチェック制度（心理的な負担の程度を把握するための検査）の実施方法と留意点を解説する。また，労働者個人及び職場集団を対象としたストレスチェックの事後措置を概説する。	
40	□精神障害の労災問題 200-43(02-02)	廣　　尚　典	講義 産業医実務研修センター 50名	2/19（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】精神障害の労災認定に関して、労災補償制度の枠組みを踏まえたうえで、認定基準の要点と産業医が担える役割を解説できる。 【概要】業務上疾病の未然防止に向けた取り組みは、産業保健活動の中核である。精神障害の労災請求件数および認定（業務上と認められた）件数はともに増加を続けており、産業医がその動向や認定に関する考え方を知っておくことは、産業保健活動の推進のために極めて重要である。本講座では、まず労災補償制度の基本的事項、特徴、留意点などを整理し、精神障害の労災認定について、最新の認定基準（令和4年発出）に沿って詳説して、精神障害の労災事例の発生やそれに係る現場での混乱を防止するために産業医ができることを考察する。	

令和08年度　　健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
41	□精神疾患と健康管理：産業医に必要な疾病理解 200-44(02-02)	小　西　勇　輝	講義 産業医実務研修センター 50名	3/ 8（月）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】 産業医として、成人期ADHDの病態や併存症への理解を深め、職場における事例性への気付きや、適切な合理的配慮・就労支援の方法を習得する。 【概要】 近年、成人の発達障害への社会的関心が高まっている。成人期ADHDの世界的有病率は約3.4%と推計されるが、うつ病や双極性障害などの気分障害が併存することで本来の障害が見過ごされている事例も少なくない。職場においては、不注意による事故や業務効率の低下（プレゼンティイズム）、対人トラブルといった「事例性」として顕在化することが多い。 本講義では、ADHDの疫学・診断基準といった基本的知識に加え、診断が難しい併存症（うつ病・双極性障害・BPD等）との鑑別ポイントについて、外来症例を交えて解説する。また、障害者法定雇用率の引き上げや合理的配慮の提供義務化などの法的背景を踏まえ、産業医として求められる職場環境調整、専門機関との連携、具体的な支援策について実践的な知識を提供する。	
42	□精神疾患と健康管理：職場不適応（パーソナリティ障害、発達障害、アルコール依存症） 200-45(02-02)	新　開　隆　弘	講義 産業医実務研修センター 50名	2/26（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】精神疾患を背景とする職場不適について総合的に対応できる。 【概要】精神疾患を背景とする職場不適について、特にパーソナリティ障害、発達障害、アルコール依存症について学ぶ。それぞれの疾患の基本概念を把握し、初期対応や専門家への紹介、主治医との連携、職場での処遇などについて、産業医として基本的な心構えを習得する。	
43	■メンタルヘルス：事業場外資源によるケア 200-46(02-02)	市　川　佳　居	講義　実習 遠隔講義 50名	2/ 3（水）	コマ数 2 医師会認定単位区分 専門 3	【到達目標】事業場外資源の選定、品質チェック、活用方法の指示をできるようになる。 【概要】職場におけるメンタルヘルス対策において、ＥＡＰ（EmployeeAssistanceProgram＝従業員支援プログラム）の役割や取り組みについて概説する。産業医としてＥＡＰを導入する際の手順、ＥＡＰベンダーの品質管理、ＥＡＰとの連携方法、その他ＥＡＰの活用方法を、事例を入れながら解説する。	
44	□メンタルヘルス：復職支援とケーススタディ 200-47(02-02)	江　口　　尚	参加型講義 産業医実務研修センター 30名	1/26（火）	コマ数 2 医師会認定単位区分 実地 3	【到達目標】メンタルヘルス休職者の職場復帰支援の実務上の留意点について理解できる。 【概要】本講義では、職場のメンタルヘルス対策で最もトラブルになりやすい職場復帰を取り上げる。1コマ目では、「職場復帰支援の手引き」をベースに職場復帰支援の要点について、最新の判例等を交えて復習する。２コマ目では、グループワークにより事例検討を行い、職場復帰についての産業医の役割について理解を深める。職場復帰支援における産業医の役割については、正解はない。グループワークは、色々な意見に接することで、職場復帰支援における自分なりの立ち位置を考える機会とすることを目的とする。	【抽選】　余裕があれば学外者受講可

令和08年度　　健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
45	■企業内のパンデミック拡大防止の実例－問題解決における情報の重要性－ 200-49(02-02)	眞　崎　義　憲	講義 遠隔講義 50名	2/16（火）	コマ数 2 医師会認定単位区分 専門 3	【到達目標】大規模感染症発生時に企業がとるべき対応について、系統的に検討し、経営陣および従業員に対して、助言・指導が出来る。 【概要】２００９年に発生した新型インフルエンザのような大規模感染症が発生した際、企業には事業の継続と業務上発生しうる従業員と顧客の感染拡大防止という、相反する二つのことを実現する必要に迫られる。このような事態に備えて事業主がＢＣＰ（事業継続計画）を策定する際、産業医は各業種に応じて、各事業場での感染拡大予防が実施できるように助言することが求められる。本講座では、種々の事業所の中でもサービス提供者および受益者の双方で感染拡大を惹起しやすい教育現場での感染拡大防止の実例を通して、問題解決における情報の重要性、とくにその収集と解析、取り扱いに関して講義を行う。	
46	■多職種連携－産業看護職との連携を中心に－ 200-51(02-02)	監　物　友　理	講義 遠隔講義 50名	1/14（木）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】産業保健における多職種連携に関する知識を習得し、現場実践における行動を理解できる。 【概要】近年、働き方改革、ダイバーシティの推進、雇用の延長、テレワーク、といった労働環境の変化により、産業医・産業保健スタッフに求められる役割も拡大している。そのため産業医のみならず、多職種で連携・協働しながら、労働者や組織における健康上の課題への取り組むことが求められている。この講義では、産業保健活動を担う各職種の強みを生かして連携強化につながるよう、特に産業看護職との連携を中心に、現場での事例を紹介しながら説明する。	
47	□皮膚吸収性物質の発がん 200-52(02-02)	上　野　　晋	講義 産業医実務研修センター 50名	2/12（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】経皮吸収による健康障害、特に発がんをもたらす化学物質の特性を理解し、そのような化学物質を取り扱う際の三管理（作業環境管理、作業管理、健康管理）を実践することができる。 【講義概要】2015年から2016年にかけて発覚した職域での膀胱がん集団発症は、原因物質であるオルト-トルイジンやMOCAの経皮ばく露によって生じた蓋然性が高いと結論づけられている。これを契機に、皮膚から吸収され、若しくは皮膚に侵入して、健康障害を生ずるおそれがあることが明らかな化学物質を新たに「皮膚吸収性有害物質」と定義し、不浸透性保護具の使用が義務付けられた。本講義では、皮膚吸収性有害物質に関する三管理（作業環境管理、作業管理、健康管理）を実践するための基本となる、皮膚吸収性有害物質の特性とその経皮吸収機序、ならびに発がんを含む健康障害の発症について概説する。	
48	□産業医が知っておくべき泌尿器科疾患 200-53(01-01)	柏　木　英　志	講義 産業医実務研修センター 50名	2/ 9（火）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】産業医が知っておくべき泌尿器悪性腫瘍を把握する 【概要】泌尿器悪性腫瘍を解説する	

令和08年度　　健康管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
49	□【特別講義】放射線業務従事者の労災認定について 200-99	明　石　眞　言	講義 産業医実務研修センター 50名		コマ数 2 医師会認定単位区分 専門 3	【到達目標】放射線とその影響、またその特殊性から他の労災認定と異なる点を理解する。 【概要】放射線にはX線や中性子線等多くの線質がありその影響は線量により評価するが、線量率によっても異なる。被ばくに起因する疾病は、急性障害、慢性的被ばくによる障害、悪性新生物、退行性疾患等に類型化される。また、被ばくによる障害は特異性がなく、他の原因による疾病との識別が困難なものが多い。悪性腫瘍もその一つであり、放射線により特異的に生じる悪性腫瘍はない。悪性腫瘍の労災認定は、厚生労働省が開催する「電離放射線障害の業務上外に関する検討会」で、個別に業務起因性を検討している。検討会は放射線障害、放射線医学、放射線防護、腫瘍、疫学の専門家からなり、「原子放射線の影響に関する国連科学委員会（UNSCEAR）」の考えを基本として認定を行うが、PubMedで常に最新の文献に照らし、労災認定に当たっているのが特徴である。	
					コマ数 医師会認定単位区分		
					コマ数 医師会認定単位区分		
					コマ数 医師会認定単位区分		

令和08年度　　作業管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
1	□入門シリーズ（作業管理概論） 300-01(02-02)	榎　原　　毅	講義 産業医実務研修センター 50名	1/ 8（金）	コマ数 0 医師会認定単位区分 専門 3	【到達目標】①労働衛生の３管理における作業管理について、どのような業務を行うのか概要を把握する。②作業管理における作業分析の方法や労働衛生保護具の概要について把握する。③実務講座における作業管理部の開講科目について把握する。 【概要】入門編として、作業管理とは何か、またどのような業務を行うのかについて紹介する。まず、我が国の業務上疾病の発生について、経年的な推移と疾病の原因を概観する。次に作業管理の位置付けについて、労働衛生の目標との関連、企業における諸管理との関連について紹介し、また、作業管理と関連の深い人間工学及び労働衛生工学について概説する。一方、作業分析の方法、労働衛生保護具の選定と管理の方法など、そして法規や通達に規定されている作業管理の事例などについても簡単に紹介する。さらに、作業管理部の実務講座のそれぞれの内容についても一部紹介する。	
2	□ヒューマンエラー 300-02(02-02)	庄　司　卓　郎	講義 産業医実務研修センター 50名	2/ 4（木）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】①ヒューマンエラー事例を検討して、根本原因、背景要因を究明できる。②ヒューマンエラー防止対策を考案できる。 【概要】作業現場において、ヒューマンエラーや不安全行動と関連した労働災害の発生が多く発生している。安全担当者はヒューマンエラーを問題視し、その防止に頭を悩ませているが、なかなか減少しないのが現状である。事故や災害の分析では、ヒューマンエラーや不安全行動が”原因”として扱われることもあるが、実際にはヒューマンエラーや不安全行動が発生する背景には作業の問題、組織・管理の問題をはじめとして、さまざまな要因が存在する。そして、その防止にあたっては、作業設備の改善や管理・監督の強化などの現場レベルの対策だけでなく、作業員の安全意識や安全活動への関心など人間の特性を考慮した対策も重要である。 本講義では、ヒューマンエラー事例の分析体験を通じて、誘発要因を理解し、防止対策を検討する。	
3	□リスク認知と安全意識 300-03(02-02)	庄　司　卓　郎	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	3/ 9（火）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】①安全意識の測定を実践できるようになる。②安全意識を高めるような組織の施策を立案できるようになる。③リスク認知のバイアスを理解できる。④リスク感受性を高める方法を提案できる。 【概要】リスクアセスメントでは、危険性の検出と特定、危険性の評価・見積もりを行う。一般に人が危険を認識し評価する過程（リスク認知）にはバイアスが存在することが知られている。そのため、多くの場合人は危険を過小評価してしまう。このことが危険軽視、油断、さらには不安全行動につながることも多い。作業員の安全意識高揚のために、安全文化の醸成をはじめとしたさまざま施策が実施されてきた。近年では行動経済学的手法を用いた安全行動への誘導も試みられている。 本講義では、人のリスク認知の性質を学び、安全意識を高揚させ安全行動へと誘導する方法について考える。	
4	□安全管理の実際 300-04(02-02)	弘中知行・野末知里	講義 産業医実務研修センター 50名	1/29（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】産業医の立場から安全管理に対する指導的な発言ができる。 【概要】企業における安全衛生管理は、安全管理、職場環境管理、健康管理が三位一体となって推進されている。産業医は、健康管理や職場環境管理等（労働安全衛生規則第１４条に定める職務）の他に、安全衛生パトロールへの参加（同規則第１５条）、安全衛生委員会への出席（労働安全衛生法第１９条）や、法に定められていない所でも、災害発生時の救急対応やその教育、また、ヒューマンエラーによる労働災害を防止するため心理学的側面からの一助を求められるなど、安全管理との関わりを持たざるを得ない。本講義では、鉄鋼会社の実例により、労働災害の現状及び企業における安全管理の基本（労働安全衛生マネジメントシステム、リスクアセスメント活動、社員の安全意識向上やルール遵守のための躾活動、作業請負会社と連携した安全衛生活動など）について学習し、産業医の立場から安全管理に対する指導的な発言ができる力を獲得することを目指す。	

令和08年度　　作業管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
5	□新しい自律的作業管理 300-05(02-02)	榎　原　　毅	学内実習 産業医実務研修センター 20名	1/28（木）	コマ数 2 医師会認定単位区分 実地 3	【到達目標】①安全・健康といったwell-beingと労働生産性・品質といったパフォーマンスの適正化視点を獲得する。②各ステークホルダの価値を分析、明確化し要求事項として整理できる。③自律的作業管理を組織内で展開する際に必要となる組織マネジメントやステークホルダとのパートナーシップの形成方法を理解する。 【概要】作業管理の理論的枠組みを扱う人間工学分野で今トレンドとなっているシステムズ・アプローチによる新しい課題解決手法の視点を実習形式で体得する。安全・健康といったwell-beingと労働生産性・品質といったパフォーマンスの適正化をはかるために、人を含むシステム要素間の相互作用を適切にデザインする視点を習得することで、自律的な作業管理の実践を現場で指導するスキルを身につける。	【抽選】　余裕があれば学外者受講可
6	□デジタルメンタルヘルスと作業管理 300-06(02-02)	榎　原　　毅	講義 産業医実務研修センター 50名	2/ 9（火）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】①デジタルメンタルヘルスを取り巻く技術動向と産業保健サービスを理解する。②デジタルメンタルヘルスの国内外の基盤整備の動向を把握し、作業管理への応用視点を獲得する。 【概要】近年、生成AIや各種センシング技術などを活用し、働く人々のウェルビーイングを高めるための新たなヘルスケアサービスの模索や社会基盤の整備が進められている。それら技術を適切に社会へ普及実装するためには、技術応用の利点や限界について産業医が理解し、実践応用することが求められる。本講義では最新のデジタルメンタルヘルスの技術動向と産業保健・作業管理への応用のあり方について、基本的な知見と視点を身につける。	
7	□障害者のための作業管理 300-07(02-02)	二　宮　正　樹	講義 産業医実務研修センター 50名	1/20（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】 ①障害者に対する合理的配慮および両立支援の概念を理解し、その内容を説明できる。②障害者の作業管理において、就業能力の評価に必要な情報を収集する方法を説明できる。③障害者の作業管理において、適正配置の観点からその考え方を説明できる。 【講義概要】 本講義では、外傷性脳損傷や脳卒中などの中途障害を有する労働者の復職に際して必要となる作業管理について、両立支援の観点から概説する。復職における作業管理では、身体障害や高次脳機能障害などに基づく就業能力の評価が重要であるが、なかでも高次脳機能障害は医療者においても十分に理解されていない場合があるため、基礎から詳しく解説する。あわせて、本人および医療機関から得られる障害に関する情報収集のポイントや、それらの情報に基づいた両立支援の考え方について理解を深める。	
8	■高齢者の作業管理 300-08(02-02)	樋　口　善　之	講義 遠隔講義 50名	2/22（月）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】高齢者の作業特性を理解し、適切な作業管理を指導できる。 【概要】職場における労働者の高齢化は、高齢者人口割合の増加と定年の延長により、今後、更に深刻さを増すことが予想される。高齢者が安全かつ健康に働ける職場を提供するためには、加齢による心理的身体的特性の変化を理解し、作業管理を行う必要がある。本講義では、加齢による心理的身体的特性の変化について概説し、その特性の変化に合わせた職場改善の方法論について解説を行う。	

令和08年度　　作業管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
9	□人間工学チェックリスト 300-09(02-02)	吉　川　　徹	学内実習 産業医実務研修センター 50名	2/ 4（木）	コマ数 2 医師会認定単位区分 実地 3	【到達目標】①人間工学チェックポイント（ILO）の意義について理解する。②人間工学チェックポイントを職場改善活動において活用できる様になる。 【概要】1．人間工学チェックリストとは何か：対策選択型アクションチェックリストの典型である人間工学チェックリストの構成と対象領域について概説する。従来から広く使われている点検型チェックリストとの相違点について理解する。 2．人間工学チェックリストをどう使うか：人間工学チェックリストを利用した職場改善実践やリスクアセスメントの事例をもとにして具体的な使用法を紹介する。潜在リスクの洗い出しに役立つことから、リスクアセスメントを実施する人材養成に活用できる点や、職場改善に構成員全員の参加を促す効果がある点を理解する。 3．人間工学チェックリストをどう作るか：対象とする職場に適した人間工学チェックリストの作成法について概説する。作業場を撮影した写真（映像等）を題材にして、実際にチェックリストを作成・試用するグループワークを通じて理解を深める。また、人間工学チェックリストを基本にして、メンタルヘルス対策や災害時対応などに用いられている発展形のアクションチェックリストなどについても学ぶ。	
10	□国内外の最新動向を踏まえた作業姿勢評価 300-10(02-02)	山　田　晋　平	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	1/29（金）	コマ数 2 医師会認定単位区分 実地 3	【到達目標】作業姿勢に伴う負担を評価できる 【概要】本講義は参加型講義の形式をとり、作業姿勢評価の動向を紹介するとともに、NLE*に加えて、OWAS法やRULA法をはじめとする各種作業姿勢評価法について、その基本的考え方および職場におけるその活用法を習得することを目的とする。 *：米国労働安全衛生総合研究所（NIOSH）が提案している手作業による荷物の持ち上げ持ち下げ作業による腰痛リスクのの評価方（NIOSH lifting equation）。この方法を基本にISO 11228－1がまとめられており、これを受けてJIS化が進められ、新規格として、2021年にJIS Z8505-1の原案が取りまとめられている。	
11	□心理社会的要因による筋骨格系疾患の対策 300-11(02-02)	谷　　直　道	講義 産業医実務研修センター 50名	1/28（木）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】労働者の腰痛発生及び症状の遷延要因として心理・社会的要因が関与していることを理解する。また、心理・社会的要因による腰痛発生機序ならびに身体・労働生産性等への影響についても理解する。 【概要】腰痛の発生要因はBio-Psycho-Socialモデルとして世界的なコンセンサスが得られている。このうち心理・社会的な要因としては仕事の満足感、上司・同僚らの支援、職場の対人トラブル、過度な長時間労働などによる心理的負荷や学歴、収入、社会的地位などの要因が腰痛の発生及び遷延に関与することが明らとなっている。これらを背景に2013年に改訂された「職場における腰痛予防対策指針」でも、腰痛発生要因について新たに心理・社会的要因が明記された。本講義では、心理的ストレッサーによる脳内でのドーパミンシステムの不具合、学歴・収入といった社会的要因と腰痛の関係について解説する。可能であれば事前に「行動災害（転倒・腰痛）予防の作業管理」を受講することが望ましい。	
12	□行動災害（転倒・腰痛）予防の作業管理 300-12(02-02)	谷　　直　道	講義 産業医実務研修センター 50名	1/13（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】転倒・腰痛災害に関連するリスク要因を理解し、作業管理などの労働衛生管理を含む包括的なリスクマネジメントの重要性を理解する。 【概要】近年の労働災害統計を事故の型別にみると、休業4日以上の労働災害で最も多い原因は「転倒」、次いで「動作の反動・無理な動作（いわゆる腰痛など）」が全体の約半数を占めている。さらに、業務上疾病（但し、新型コロナウイルス感染症を除く）では腰痛が約6割を占め最も多く発生している疾患である。これら転倒災害や腰痛災害は働く人の行動に起因する労働災害として、近年は『行動災害』と呼ばれており、発生件数は年々増加傾向にある。本講義では、これら行動災害の発生要因と原則的な作業管理対応について労働世代の人口動態も踏まえつつ解説する。	

令和08年度　　作業管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
13	□腰痛職場の運動指導 300-13(02-02)	近　藤　晃　弘	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	1/15（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】腰痛職場における環境因子と個人因子について整理し、職業性腰痛の予防と対策について習得する。 【概要】厚生労働省は「職場における腰痛予防対策指針」を提唱しており、作業性腰痛予防は重要である。中でも製造業における腰痛は労働災害となるだけでなく、労働力・生産性の低下や個人の生涯に関わる問題であり対策が必要である。 某航空機部品製造業事業場における腰痛予防対策として、腰痛予防教育を実施した結果と取り組みについて紹介する。また、実際に行っている腰痛予防対策の運動療法を実施して頂き、身体機能の改善が動作に及ぼす影響を体感して頂く。 理学療法士の視点での評価と治療を紹介し、骨盤不良アライメントや腰痛の発生メカニズムと運動指導の手法を共有する。	
14	□情報機器作業に関する作業管理 300-14(02-02)	川　波　祥　子	講義 産業医実務研修センター 50名	3/ 3（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】1．情報機器作業ガイドラインを概説できる。2．作業場の写真を見て問題点と改善提案を3つ以上挙げられる。 【概要】情報機器作業が健康に及ぼす影響には疲労の問題があり、眼精疲労や肩こり等を訴える作業者は多い。これらの症候を予防するためには作業方法、作業時間等の管理を行い、疲労が蓄積しないような対策を講じることが重要である。本講義では、ガイドラインで示される望ましい作業管理を解説し、具体例を提示することで、職場巡視や健康診断事後措置において産業医として適切な指導が行えることを目的とする。	
15	□シフトワーカーの作業管理 300-15(02-02)	丸　山　　崇	講義 産業医実務研修センター 50名	3/ 3（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】 ①睡眠・生体リズムの基礎について理解する。②夜勤・交替勤務のリスクについて理解する。③夜勤・交替勤務の健康管理について理解する。 【概要】 夜勤・交替勤務は電力などインフラ業、製造業、運輸業、医療福祉業などで多く見られる勤務形態であるが、夜勤・交替勤務には、健康リスクや安全リスクがあることも知られている。本講座では、睡眠・生体リズムの生体機構の基礎について学ぶとともに、人間が本来持つ生理機構に反する働き方である夜勤・交代勤務による健康影響や夜勤・交替勤務者（シフトワーカー）の健康管理や作業管理の実際について学ぶ。	
16	□過重労働対策 300-16(02-02)	宮　﨑　洋　介	講義 産業医実務研修センター 50名	1/12（火）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】医師として長時間労働者に対する面接指導を適切に実施できる。 【概要】過重労働は長らく社会問題となっており、産業医も企業内で過重労働対策に関わることが多い。本講義では、社会背景や日本の労働状況を踏まえながら、過重労働による健康障害の発生機序や疫学、関係法令を概観し、産業医による過重労働対策について解説する。	

令和08年度　　作業管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
17	■騒音障害防止のためのガイドラインと許容基準 300-17(02-02)	井　上　仁　郎	講義 遠隔講義 50名	1/25（月）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】騒音障害防止のためのガイドラインを正しく事業所で適用できる。 【概要】騒音性難聴の予防のための騒音職場の健康管理の実態をふまえた作業環境測定・健康管理・労働衛生教育の方法、および、日本産業衛生学会の騒音の許容基準について解説する。「騒音障害防止のためのガイドライン」制定時にはあまり想定されていなかった労働実態（高齢労働者の増加、音源が作業者に近い手持動力工具の普及、管理区分の異なる作業場を移動する作業、日内の騒音の大きな変動がある作業場）への対応や、労働衛生の新知見（欧米で実施の個人曝露測定への流れ、ガイドラインに組み入れられていない衝撃音の評価、雇入時の聴力からの変化を指標とするStandard Threshold Shift、事業場単位で聴力保護対策をマニュアル化するHearing Conservation Program（聴力保護プログラム））についても概説する。	
18	□呼吸用保護具の適正使用 300-18(02-02)	川　波　祥　子	講義　実習 産業医実務研修センター 20名	3/ 9（火）	コマ数 1 医師会認定単位区分 実地 1.5	【到達目標】1．呼吸用保護具を正しく選択できる。２．呼吸用保護具を着用し、フィットテストで漏れ率10%以下を達成できる。 【概要】労働現場における吸入暴露をする健康障害因子には、粉じんや有毒ガス、細菌・ウイルスなどがあり、これらによる健康障害防止策の最終的手段として呼吸用保護具の着用がある。しかしながら、その効果や限界、ならびに使用法については、現場で指導にあたっている専門家でも、十分な知識を有していない場合がある。特に呼吸用保護具は使用前に各人がフィットテストを行って自分の顔に合うかを確認する必要があるにもかかわらず、実施されていない企業もまだまだ多い。そこで本講義実習では、自分の顔に合った呼吸用保護具の選択方法と、その適切な装着方法、そしてフィットの確認方法について学ぶこととする。	【抽選】　余裕があれば学外者受講可
19	□個人用保護具の管理 300-19(02-02)	東　　秀　憲	学内実習 産業医実務研修センター 35名	2/12（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 実地 1.5	【到達目標】①保護具の選択・使用・保守管理について作業管理および作業環境管理と関連づけて実践できる。②現場の状況に応じた保護具の選択・使用について説明できる。③主に手、足、または全身についての有害要因からの保護について説明できる。 【講義概要】労働現場における健康障害防止策の最終手段として個人用保護具の着用がある。 本講義では、化学防護手袋を中心に個人用保護具に関して、その種類や性能について学び、個人用保護具選定の際の基礎知識を得るとともに、具体的な選定手順について学修し、個人用保護具の正しい装着法や適切な管理について習得する。	【抽選】余裕があれば学外者受講可。
20	□作業管理活動と職場巡視 300-20(02-02)	山　田　琢　之	学外実習 産業医実務研修センター 50名	2/ 4（木）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】①将来、独立系産業医（労働衛生コンサルタント）として活躍できるノウハウを身に着ける。②作業管理は予防医学の一環であることの理解を深める。 【概要】作業管理とは、作業そのものと働く人々の作業態様について分析し、作業負担から生じる健康障害を予防する。そして、問題点の改善（作業時間、作業負担、作業手順、作業姿勢などを検討）が中心の作業管理に加え、第一次予防の快適で楽しく働くことができる職場づくりに寄与することが大切である。労働の場で引き起こされる健康障害や労働災害の根源を学問的に追求するためには職場を知らなくてはならない。作業管理活動を実践するために必ず行わなくてはいけないのが「職場巡視」である。「機械―人間系」が「人間工学」といわれるが、「労働の場（職場）―人間系」が「産業保健人間工学」つまり「作業管理」である。労働災害が発生した場合、後日書類を見て検討することは容易だが、そこには現場の苦労や本当の危険は見えてこない。そこで私が経験した職場巡視の体験を報告する。	

令和08年度　　作業管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
21	□職場改善の実例 300-21(02-02)	センター教員	学外実習 学外 20名	2/18（木）	コマ数 3 医師会認定単位区分	【到達目標】１．訪問先の巡視後に労働衛生の観点からコメントを述べることができる。２．職場巡視報告書に良好事項、改善検討事項をそれぞれ3つ以上記載できる。 【概要】職場をめぐる環境の変化の中で、新たに就業に伴う疲労やストレスの問題が生じている。一方、国民の意識は物質的な豊かさから心の豊かさに変化してきていて、職場における働きやすさが重視されるようになっている。つまり、疲労やストレスを感じることが少ない快適な職場環境を形成していくことが、きわめて重要となっている。快適な職場環境を形成していくことは、労働者の有する能力の有効な発揮や、職場の活性化にも資するものと考えられる。当実習では企業における取り組みの実例について学外実習形式で学ぶ。	【抽選】学内者のみ受講可
22	★職場改善の実例の事後措置 300-22(02-02)	センター教員	レポート提出 20名	2/25（木）	コマ数 1 医師会認定単位区分	【到達目標】職場巡視報告書に良好事項、改善検討事項をそれぞれ3つ以上記載できる。 【概要】本講座は、別講座『職場改善の実例』の事後措置として実施する(両方の受講を要する)。本学習では、大学近郊の事業場において職場改善の実例を模擬巡視で学習した結果について、受講者が各自、職場巡視報告書の形にまとめ、内容について検討会で相互に検討する（会議後に報告書を修正し、巡視した事業場の担当産業医へ提出する）。検討会の中で、学習した職場改善について整理し、受講者の視点での更なる改善を提案することで、継続的な職場改善について学ぶ。尚、担当教員の判断により、e-learning上での報告書の添削指導で検討会に代える場合もある。	【抽選】学内者のみ受講可。レポート提出のみ。
					コマ数 医師会認定単位区分		
					コマ数 医師会認定単位区分		

令和08年度　　作業環境管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
1	□入門シリーズ（作業環境管理概論） 400-01(02-02)	東　　秀　憲	講義 産業医実務研修センター 50名	1/ 8（金）	コマ数 0 医師会認定単位区分 専門 3	【到達目標】①労働衛生の３管理における作業環境管理について、どのような業務を行うのか概要を把握する。②作業環境管理における作業環境測定の手順や評価法の概要について把握する。③実務講座における作業環境管理部の開講科目について把握する。 【概要】入門編として、作業環境管理とは何か、またどのような業務を行うのか紹介する。次に、作業環境管理に係わる法令について、特に最近の改正に関して触れたい。さらに、快適な作業環境を維持するための作業環境管理の枠組みについて紹介し、適切な作業環境管理を実施する上で重要な工学的知識や対策について学修する。本講義の内容は、職場環境改善や快適職場形成において、産業医にとって作業環境測定士や衛生管理者といった産業保健技術者との連携に欠かすことのできない最低限の技術的知識である。加えて、以降の各論の講義や実習での基礎事項について解説するものであり、作業管理部の実務講座の開講科目内容についても一部紹介する。	
2	□ＳＤＳの読み方・活用方法 400-02(02-02)	和泉弘人・友永泰介	学内実習 産業医実務研修センター 50名	2/22（月）	コマ数 2 医師会認定単位区分 専門 3	【到達目標】SDSの内容を把握して、現場における実践的な使用法を習得する。 【概要】化学物質情報を適確に把握し、これを、労働衛生教育、取り扱いマニュアル、実際の現場での危険表示、健康診断ならびに健康管理に用いるための情報の流れを概説する。ＳＤＳは、このための基本情報であるが、この利用にあたっては、産業医（専門職）として、種々の注意が必要となる。ＳＤＳの（１）記載項目（２）内容の持つ意味（３）記載内容の質の評価（４）情報の利用にあたっての留意点を、講義と実習形式で学ぶ。実習では、ＳＤＳの記載内容を確認し、必要な情報を入手し、活用することを通して、ＳＤＳ記載内容の把握、実践的な活用について、経験し理解を深める。	
3	□作業環境の評価と対策（化学物質等） 400-03(02-02)	高　橋　一　誠	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	2/22（月）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】作業環境測定に係わる法令等も変化しており、講義にて触れていきたい。 【概要】作業環境測定は、労働者が働いている環境の状態を的確に把握し、その結果に基づいて設備改善などの措置を講じるために行うもので、その結果は作業場の実態を的確に表わしていなければならない。従って、作業環境測定は客観性があり、かつ、十分な精度が要求される。そこで、労働安全衛生法では、作業環境測定を厚生労働大臣が定める作業環境測定基準に従って行うこととされている。本講義では、作業環境測定基準に基づく作業環境測定の実施方法、結果の評価、および結果報告書の記載内容について概説する。	
4	□新しい化学物質管理者の役割と産業医との連携 400-04(02-02)	保　利　　一	講義 産業医実務研修センター 50名	2/ 1（月）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】新しい化学物質管理の概要を理解し，化学物質管理者と連携してリスクアセスメントができる． 【概要】令和4年の労働安全衛生規則等の改正により，危険性・有害性が確認されている約2,900の物質について，SDSの情報等に基づくリスクアセスメントの実施を事業者に義務付けることとなった．この改正では，事業者による自律的な化学物質管理を実施するため，化学物質管理者の選任が義務化されることになっている．また，リスクアセスメントの結果，濃度基準値を超えるばく露を受ける恐れがある場合には，健康診断を実施し，その結果に基づき必要な措置を講じなければならない．このリスクアセスメントに基づく新しい化学物質管理を円滑に進めるには，化学物質管理者と産業医の連携が重要になると考えられる．本講義では，自律的管理における化学物質管理者の役割と産業医のかかわりについて考える．	

令和08年度　　作業環境管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
5	□自律的な化学物質管理－リスクアセスメントにおけるＣＲＥＡＴＥ－ＳＩＭＰＬＥの活用 400-05(02-02)	中　原　浩　彦	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	2/17（水）	コマ数 2 医師会認定単位区分 専門 3	【到達目標】化学物質のリスクアセスメントをどのように行うかが理解できる。 【概要】大規模な法令改正による「新たな化学物質管理」が2024年4月から本格的に施行されている。事業主には，従来の「国が定めた方法に従う」ことを脱し，「自律的な管理」を行うことが求められ，その中心の手段は「リスクアセスメント」となる。本講義ではリスクとは何か，その大小の評価法（アセスメント），リスクの低減対策（マネジメント）について一般的科学（サイエンス）の視点から解説する。次いで，化学物質のリスクアセスメントとマネジメントの実際の進め方，有効なツールであるCREATE-SIMPLEの使い方，従来の管理との違い，実施するための専門家，具体的な事例等を学ぶ。以上を通し、産業医としてアドバイスを求められた場合に、どう考え、どう対応できるかを習得する。	
6	□自律的な化学物質管理－リスクアセスメントにおける確認測定と個人ばく露測定 400-06(02-02)	宮　内　博　幸	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	1/19（火）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】リスクアセスメントにおける確認測定を実施する目的と個人ばく露測定の概要が理解できる。 【概要】確認測定の方法について「労働安全衛生法第28条第１項の規定に基づく化学物質による健康障害防止のための濃度の基準の適用等に関する技術上の指針公示第26号」が公布され、令和６年５月８日に改正版が公示された。この改正版では、確認測定を実施し、測定の結果、労働者の呼吸域における物質の濃度が、濃度基準値を超え場合は、改善を要すること。超えない作業場でも、２分の１程度を上回る場合は、一定の頻度で確認測定を実施することが望ましいとされている。確認測定における試料空気の採取は労働者の身体に装着する試料採取機器を用いること、また、試料採取機器の採取口は「労働者の呼吸域」における物質の濃度を測定するために最も適切な部位に装着しなければならないとされた。この確認測定の理論と実践方法等について学ぶ。	
7	■化学物質の自律的な管理－「健康障害発生リスク」を考慮したばく露管理の考え方 400-07(02-02)	山　本　健　也	講義 遠隔講義 50名	2/ 5（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】職場における新たな化学物質管理制度のうち、特にリスクアセスメント対象物健康診断の要否判断及び実施した場合の結果の評価おける「健康障害発生リスク」を考慮したばく露管理の方法を理解する。 【講義概要】化学物質の新たな仕組みである「自律的な管理」における「リスクアセスメント対象物健康診断」について、その実施の要否は事業者裁量によるところが大きいが、「健康障害発生リスク」を適切に評価する必要があることから、産業医の意見が強く反映される場面でもある。また、濃度基準値がある場合においては事業者裁量に関わらず健康診断の実施が必要となる場面があるが、その際には濃度基準値の性質やその運用方法についても理解をする必要がある。本講義では「健康影響モニタリング」の観点で必要なばく露管理の考え方について学ぶ。	
8	□化学物質の毒性試験から基準値ができるまで～リスク評価の際に元データをどう考えるか？ 400-08(02-02)	一　瀬　豊　日	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	1/14（木）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】ＳＤＳが発行されるすべての化学物質に慢性毒性試験がされているわけではないことを理解する。ＳＤＳに記載される急性毒性試験、慢性毒性試験の実施概要を述べることができる。許容濃度の提案理由書を探すことができる。 【概要】現在産業上で使用されている化学物質数は主なものだけで57,000種、新規化学物質の製造・輸入は増加傾向にある。また、製造現場が少品種多量生産から多品種少量生産に移行していることを背景に化学物質の健康障害予防対策を迅速、かつ、的確に行う必要性は益々高まっている。更に平成21年に化学物質審査法が改正されたのに伴い、有害性審査の環境は強化され、令和5年施行の労働安全衛衛生法では化学物質自主管理が始まる。このため、ＳＤＳに記載されている有害性情報、環境影響情報がどのような毒性評価法で実施されており、何を意味しているか、原理となる量反応関係・量影響関係の概念の理解が先ず必要である。本講義ではリスク評価および毒性評価法に関して、産業衛生上重要である事項に関し重点を絞り概説し、特に許容濃度の利用の仕方が正しく理解できることを目的とする。	

令和08年度　　作業環境管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
9	□排気・換気装置の理論と応用 400-10(02-02)	石田尾　　徹	参加型講義 産業生態科学研究所５１３６号室 20名	1/ 8（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】作業環境管理における局所排気装置の優先順位および装置の構成と能力を理解できる。また、プッシュプル型換気装置を用いた簡単な実習により、装置の性能を評価できる。 【概要】作業環境改善を実施するにあたり、その改善の手順について講義する。また、現場で最も多く使用されている局所排気装置およびプッシュプル型換気装置のポイントについて述べる。さらに、プッシュプル型換気装置を用いた簡単な実習により、装置の性能評価を行う。	【抽選】学内者のみ受講可
10	□粉じん一般（環境中及び生体内）の測定・評価 400-12(02-02)	西田千夏・友永泰介	学内実習 産業生態科学研究所５４７６号室 30名	3/ 2（火）	コマ数 3 医師会認定単位区分 実地 4.5	【到達目標】粉じんに関する基礎知識を身に着け、粉じん職場における作業環境測定の方法や、結果の解釈について、実習を通して理解を深める。また、環境中のアスベストの計測も実習を通して、理解を深める。 【概要】労働環境中に浮遊する結晶質シリカや石綿に代表される粒子状および繊維状粉じんによる職業性肺疾患を予防するためには環境中粉じんの吸入性、環境濃度を正確に測定し、評価、管理する手法を学ぶことが必要である。また、労災認定や有害性評価のための生体内粉じんの測定方法の理解も重要である。本実習では、実際の職場から採取した環境試料中の粉じんを定量評価し、その方法を理解する。 講義、実習内容①粉じんに関する一般知識②環境中粉じんの測定方法③測定値の評価方法と管理区分の決定（評価値や管理区分）④生体内粉じんの測定方法の理解（繊維の回収方法、定性、定量方法） 【最新の「労働衛生のしおり」を持参すること】	【抽選】学内者のみ受講可
11	□溶接ヒューム現場の実際と法令改正～溶接ヒューム調査の結果から考える～ 400-13(02-02)	辻　　真　弓	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	3/ 1（月）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】「溶接ヒューム」に関する法を学習し、マスクフィットテストの実際や重要性を生体影響の視点から理解する。 【概要】「溶接ヒューム」及び「塩基性酸化マンガン」について、神経障害等の健康障害を及ぼすおそれがあることから、特定化学物質（第2類物質）に加える等の改正が令和2年公布・告示／令和3年に施行されました。本講義では、まず改正の内容、背景を説明します。また、法改正に伴って現場で施行されることになったマスクフィットテストに関しては、実際に使用される器具に触れながら学習します。次に、溶接ヒューム作業の実際となぜマンガンに着目する必要があるのかということをお話しします。最後に溶接作業従事者を対象とした実地調査の結果の紹介、実地調査から見えてきた溶接作業現場が抱えている問題点、その問題点に産業医としてどのように対策していくべきなのかを考察します。	
12	■有害ガスと酸素欠乏 400-14(02-02)	小　山　倫　浩	参加型講義 遠隔講義 50名	2/17（水）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】酸欠現場での酸素欠乏症等災害の教育を行い、予防対策を講じることができる 【講義概要】酸素は空気中の約２１%を占め、酸素濃度が１８%に低下するまでは人体に影響ないが、１６%以下に低下すると酸素欠乏の症状が現れる。また、人間の感覚では無色無臭の酸素欠乏空気を判断できず、マンホール、タンク、井戸など換気の悪い場所や船倉タンク、ボイラーなど鉄さびの発生で内部空気の酸素濃度が低下する密閉された鉄の構造物において酸素欠乏症が発生しやすい。酸素欠乏症等（酸素欠乏症又は硫化水素中毒）災害の発生件数は、例年10件前後、被災者数は20人前後で推移している。これら酸素欠乏症等の被災者の約5-10割が死亡しており、致命率が高いことが酸素欠乏症等による災害の特徴である。しかし、酸素欠乏症予防の措置を適正に実施すれば酸素欠乏等による災害の発生を低下させることが可能となると考えられる。本講義では酸素欠乏症の原因、疫学、症状や予防法について系統的に学び、現場で適切な酸欠症等による災害処置や災害予防を講ずることができるようになることを目指す。	

令和08年度　　作業環境管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
13	□作業環境改善（騒音職場） 400-15(02-02)	大　神　　明	講義 産業医実務研修センター 50名	3/ 1（月）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】現場での騒音対策の実践的理論を理解し、対策を提案することができる。 【概要】騒音は、人に不快感を与えるほか、会話や連絡合図などを妨害し、安全作業の妨げになることも多く、生理機能にも影響を与える。職場における騒音の発生源は非常に多く、騒音性難聴は不可逆的であるので、騒音対策により作業者の騒音暴露を低減し、難聴の発生を予防することが重要である。本講義では、音の物理的性質と音の３要素をはじめ、騒音レベルの単位であるデシベル（ｄＢ）の意味についてその基礎から概説し、デシベル和の計算演習を行い、労働衛生の現場に必要な知識の習得を目的とする。また、騒音対策として重要な柱は、１）音源対策、２）伝播経路対策、３）受音者対策であるが、各々の項目について例題を提示しつつ解説し、さらに騒音遮蔽物の透過損失計算、デジタル騒音計を用いた簡易測定などを交えて作業環境管理の実際を体験してもらい、作業現場における騒音対策のポイントを会得することも目的とする。	
14	□作業環境の評価と対策（騒音） 400-16(02-02)	井　上　仁　郎	参加型講義 産業医実務研修センター 50名	2/22（月）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】騒音障害防止のためのガイドラインに沿った、聴覚保護具の選定方法、着用の指導法、保護具の管理等の内容を理解する。 【概要】騒音障害防止のためのガイドラインでは、騒音対策として、聴覚保護具の着用についての言及はあるが、具体的な方法については規定されていない。本講義では、作業環境測定結果に対応した聴覚保護具の選定法、着用法とその指導法、聴覚保護具の管理について具体的に解説する。	
15	□作業環境の評価と対策（電離放射線） 400-17(02-02)	阿　部　利　明 坂　口　修　一	学内実習 ＲＩ研究センター 15名	1/20（水）	コマ数 2 医師会認定単位区分 実地 3	【到達目標】①放射線・放射性物質の基本的な安全取扱方法、被ばく低減方法を理解する。②放射線業務を行う作業場における作業環境測定の方法を理解する。③得られた作業環境の測定結果から、安全評価を行う方法を理解する。 【概要】放射線施設では、放射線の量や空気中の放射性物質の濃度などを測定し、その結果を法令等の基準値などと比較して、作業環境が安全に維持されていることを確認している。この測定・評価を放射線モニタリングといい、作業者を放射線障害から守るために必要な業務である。また、作業環境測定は、法令で実施が義務付けられており、その頻度や方法なども定められている。本実習では、まず放射線障害の種類や放射線・放射性物質の安全な取り扱い方法について解説する。その上で、実際に空気中の放射性物質の濃度をサンプリング装置と放射線測定器を用いて算出し、また空間の放射線の量をサーベイメータにより測定する。そして、その結果に基づいて、作業環境の安全評価を行う際の判断基準や、安全管理が適切でないと判断された場合の対処方法について解説する。	【抽選】学内者のみ受講可
16	□作業環境の評価と対策（室内環境） 400-18(02-02)	樋　上　光　雄	講義 産業医実務研修センター 50名	2/25（木）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】室内空気環境を良好に維持するために定められた各種基準値や、それらの項目についての測定方法・環境改善（対策）方法について理解し、説明することができる。 【概要】事務職場を含む室内環境の快適性にかかわる要因には、ホルムアルデヒドやVOCsに代表される化学的因子、温湿度や気流のような物理的因子、さらに真菌や細菌あるいはウイルスという生物的因子がある。室内空気質の管理では、浮遊粉じん濃度やCO２濃度、ホルムアルデヒド濃度など、建築物衛生法や事務所衛生基準規則などにより測定実施や基準値が定められているものや、微生物のように測定実施や基準値ではなく設備のメンテナンス頻度等が定められているものなどがある。しかし、いずれも室内空気汚染物質の低減を図り、健康影響を抑えるという環境管理の考えがある。本講義では、汚染因子の発生源となりうる機器等の情報や、VOCs等だけでなく生物因子（レジオネラやカビなど）についても、濃度測定方法の概要や発生源対策、濃度低減のための対策法（換気を含む）などを考える。	

令和08年度　　作業環境管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
17	□作業環境改善実習 400-19(02-02)	宮　内　博　幸	学外実習 実務研修センター・学外事業場 20名	2/ 8（月）	コマ数 3 医師会認定単位区分 実地 4.5	【到達目標】見学後の参加者とのディスカッションをより充実させる。 【概要】北九州市の近郊の事業場において産業医と衛生管理者が作業環境改善を実施した事例について見学をおこなう。粉じん作業については、１）外付け式フードを囲い式フードに改善した事例、２）ミキサーに局所排気フードを直接接続して囲い式フードに改善した事例、３）外付け式フードの効率を高めるためにフランジを設置した事例、４）外付け式フードを効果的な作業範囲で使用している事例、５）騒音対策として音源に囲いをつけた事例、などについて講義形式で学習したのちに工場を訪問して実物を見学する。デジタル粉じん計、スモークテスター、風速計、騒音計の取り扱いについても学習する。	【抽選】学内者のみ受講可
18	□現場実習（環境の評価と対策） 400-20(03-04)	石　上　　温 高　橋　一　誠	学外実習 実務研修センター・学外事業場 20名	1/15（金） 1/21（木）	コマ数 3 医師会認定単位区分 実地 4.5	【到達目標】①A測定とB測定を簡単に説明できる。②測定結果から管理区分を決定する。③測定結果に応じた改善提案を考える。 【概要】実際の事業所に出向き、当該事業所における有害要因の把握及び作業環境測定（デザイン・サンプリング・測定・評価・対策）を実施することにより、作業環境測定の実際を系統的に理解することを目的とする。	【抽選】学内者のみ受講可
19	□転倒災害防止のための作業環境管理 400-21(02-02)	宮　内　博　幸	講義 産業医実務研修センター 50名	3/ 8（月）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標・講義概要】転倒災害を防止するためには労働衛生の3管理が重要である。その中で特に作業環境管理が重要であり、特に管理者(事業場)として注意をしなければならない管理について理解してもらうことを到達目標とする。	
20	□作業環境改善が困難な場合の対応 400-22(02-02)	保　利　　一	講義 産業医実務研修センター 50名	1/15（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】　作業環境改善が困難な作業場について，その原因，改善の可能性とその手法，さらに有効な保護具の活用による作業者保護の方法について理解する． 【講義概要】　化学物質の自律的管理が全面施行され，リスクアセスメントに基づく労働衛生管理を事業者責任で実施することが義務化された．化学物質を取り扱う作業では，作業環境を良好に保ち，ばく露を最小限になるように管理することが重要であり，例えば特別則対象物質では，作業環境測定の結果が第3管理区分にならないように管理することが求められるが，それが困難な場合は，有効な保護具を着用し，保護具内部の濃度を管理濃度以下にすることが義務化された．特別則以外のリスクアセスメント対象物を取り扱う作業場でも同様の措置が要求される． 　本講義では，作業環境の改善が困難になる要因と，そのような作業場における対策について考える．	

令和08年度　　作業環境管理部カリキュラム

NO	科目名・科目コード	講師名	方法・場所・定員	実施日	コマ/単位数	概要	備考
21	□暑熱対策としての作業環境管理または作業環境の評価と対策（暑熱環境） 400-23(02-02)	永　野　千　景	講義 産業医実務研修センター 50名	1/19（火）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】暑熱環境を適切に測定・評価し、結果に基づいた熱中症予防対策を提案できる。 【概要】熱中症発症のリスク要因について解説し、暑熱リスクに影響する環境指標、生体指標およびその測定方法と測定に際しての留意事項、リスクアセスメントの手法について解説する。	
22	□作業環境と労働生産性 400-24(02-02)	榎　原　　毅	講義 産業医実務研修センター 50名	1/22（金）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】①作業環境が労働生産性に与える影響について説明できる。②人間工学の観点から作業環境の整備について助言できる。 【概要】人間工学の観点からは、物理環境（レイアウト・騒音など）やActivity-based-workingといった新しい労働環境スタイルが労働生産性に与える影響や、オフィス環境の整備が従業員満足・プレゼンティーズムを介して労働生産性に影響するなど、作業環境と生産性の関係性は近年、再注目されています。また米国・カナダ・欧州では普及しつつあるWELL認証(米国グリーンビルディング認証)やLEED（米国グリーンビルディング認証）にて、Indoor Environmental Quality（IEQ）での照明・音環境・ワークステーションの人間工学設計が求められています。本講義では、それらのような国内外の動向を概説します。	
23	□事務所における快適環境形成と法規制 400-25(02-02)	友　永　泰　介	講義 産業医実務研修センター 50名	2/25（木）	コマ数 1 医師会認定単位区分 専門 1.5	【到達目標】ビル管法(建築物衛生法)の内容を把握し、事務所の衛生管理の理解を深める。 【概要】オフィスなどの事務所の作業環境管理に関する法律として、建築物の衛生管理の法律(通称 ビル管法)や事務所衛生基準規則が挙げられる。事務所の作業環境管理を進める上で、これらの法律を理解することは重要である。ビル管法(建築物衛生法)は、建築物における空気環境や水質維持の管理に関して規定しているおり、事務所の快適環境の構築はもちろん、事務所におけるインフルエンザやコロナウイルス、レジオネラ等の感染症を防ぐためにも、建築物の空気環境や水質維持の管理の理解は必要となる。本講義では、ビル管法のほか、事務所則の内容も把握することで、事務所における作業環境管理の理解を深める。	
					コマ数 医師会認定単位区分		